

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.81



2019年2月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

○ 「AKATSUKI FIVE」男子日本代表WC二次予選4連勝・・・・・・・・・・	2
ワールドカップ二次予選第5ウィンドウ連勝し第6ウィンドウに臨む	
○ 第94回天皇杯・第85回皇后杯・・・・・・・・・・	5
全日本バスケットボール選手権大会の結果	
○ SoftBank ウインターカップ 2018・・・・・・・・・・	14
第71回全国高等学校バスケットボール選手権大会結果	
○ 1976 モントリオールオリンピック（その2）・・・・・・・・歴史部・・・	21
出場男子オリンピックの座談会	
○ 実業団チームの社会貢献活動・・・・・・・・総務部・普及部・・・	27
横河電機バスケットボール部	
○ 12月21日はバスケットボール・・・・・・・・普及部・・・	29
バスケットボールは今年で128才	
○ 人物抄 佐室有志 さん・・・・・・・・・・	30
○ 会員だより	
リングに向かって“飛べ”10年後の子供達・・・・・・・・鈴木 承二・・・	32
その3：埼玉県立飯能高校男子バスケットボール部	
アジアのバスケット好きの仲間たち・・・・・・・・鈴木 承二・・・	34
その3：第8回アジアシニア日本人バスケットボール大会	
○ Bリーグ情報・・・・・・・・・・	36
○ Wリーグ情報・・・・・・・・・・	38
○ 訃報・追悼文・・・・・・・・・・	42
○ 事務局だより・・・・・・・・・・	44
○ プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・	45

「AKATSUKI FIVE」 男子日本代表WC二次予選4連勝

ワールドカップ二次予選第5ウィンドウ連勝し第6ウィンドウに臨む

[編集部]

FIBA バスケットボールワールドカップ 2019 で二次予選に進出の日本は、第4ウィンドウで活躍の八村塁選手、渡辺雄太選手が不参加となったが、ファジーカス ニック選手が復帰して第5ウィンドウの2試合を連勝し、グループFの3位に入った。

11月29日、12月2日に発表された二次予選第5ウィンドウの日本代表選手12名は下記の通りであり、この2試合のエントリーに変更はない。スタッフは従来と同一のメンバーである。

＜「AKATSUKI FIVE」選手＞

* 年齢・所属は2018年11月29日現在

NO	選手名	P	身長	体重	年齢	所 属
			cm	kg	歳	
2	富樫 勇樹	P G	167	65	25	千葉ジェッツ
6	比江島 慎	P G	190	88	28	ブリスベンブレッツ
7	篠山 竜青	P G	178	78	30	川崎ブレイブサンダース
8	太田 敦也	C	206	112	34	三遠ネオフェニックス
10	竹内 公輔	P F	206	100	33	栃木ブレックス
15	竹内 譲次	S F	207	98	33	アルバルク東京
18	馬場 雄大	S F	198	90	23	アルバルク東京
21	市岡 ショーン	P F	198	96	27	レバンガ北海道
22	ファジーカス ニック	C	210	111	33	川崎ブレイブサンダース
24	田中 大貴	S G	192	93	27	アルバルク東京
51	古川 孝敏	S G	190	92	31	琉球ゴールデンキングス
88	張本 天傑	S F	197	102	26	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
	平 均		194.9	93.8	29.2	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、

SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

FIBA ワールドカップ 2019 二次予選（第2ラウンド）

FIBA バスケットボールワールドカップ 2019 二次予選で、日本は下記のグループFに含まれる。各グループは、一次予選の成績をそのまま引き継ぎ、二次予選で未対戦チーム同士が対戦する。二つのグループE・Fそれぞれの上位3チームは無条件に決勝戦に進める。

第5ウィンドウ：日本の成績

[ホームゲーム]

11月30日 富山市総合体育館

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	20	11	30	24	85
カタール	15	17	8	7	47

カタールは日本の厳しいディフェンスにより攻めあぐむ。日本も第2クォーターではカタールのディフェンスに外郭からのシュートが決まらず苦戦し、前半を日本は低スコアの31-32と1点のビハインドで終えた。しかし、後半、日本は激しいディフェンスからの速攻で着実に得点し、カタールの得点を抑えて85-47と大勝した。

個人得点は、#22 ファジーカスが19点、#18 馬場が13点、#6 比江島12点、#24 田中が12点で、#6 比江島の3ポイントシュート3本、#22 ファジーカスの10リバウンドが特筆される。チームスタッツで日本は全面的にカタールを凌駕している。

[ホームゲーム]

12月 3日 富山市総合体育館

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	19	15	28	24	86
カザフスタン	25	8	25	12	70

第1クォーター、カザフスタンの速い動きからの攻めが得点に結び、日本は19得点したが6点のビハインドとなった。第2クォーター、日本は#22 ファジーカスのリバウンドとシュートでの活躍により残り3分を切って29-29と追いつき、以降はリードする。一方、日本は、厳しいディフェンスでカザフスタンの得点を抑え、34-33で終える。

後半、第3クォーター、日本は速い攻めでリードするが、カザフスタンの必死の追いすがりで残り2分を切った時点、55-55の同点になる。その後、突き放して62-58の4点リードで終える。第4クォーター、日本はリング下での#22 ファジーカスの活躍があり着実に得点を重ねる一方、厳しいディフェンスでカザフスタンの得点を抑え、結局、16点のリードを奪って勝利した。

日本は、#22 ファジーカスが大量41得点、#6 比江島14得点で、チームリバウンド33個の内、#22 ファジーカスが15個であり、#22 ファジーカスの活躍が明確である。

カザフスタンは、#17 選手23得点、#20 選手11得点だが、チームリバウンド36個に対し、5選手が5~7個と多数で頑張っている。

グループF 第5ウィンドウまでの成績

(上段ホーム・下段アウェー)

順位	チーム	AUS	JPN	PHI	IRI	KAZ	QAT	一次予選 引き継ぎ	勝	負
1	オーストラリア		○ 82-58 ● 78-79	○ 84-68 ○ 89-53	○ 76-47	○ 94-41	○ 110-59 ○ 95-43	○	9	1
3	日本	○ 79-78 ● 58-82		● 71-77 ● 84-89	○ 70-56	○ 86-70 ○ 85-70	○ 85-47	●	6	4
4	フィリピン	● 53-89 ● 68-84	○ 89-84 ○ 77-71		● 70-78 ● 73-81	● 88-92	○ 92-81	○	5	5
2	イラン	● 47-76	● 56-70	○ 81-73 ○ 78-70		○ 88-56 ○ 75-54	○ 65-39 ○ 77-75	○	7	3
5	カザフスタン	● 41-94	● 70-85 ● 70-86	○ 92-88	● 54-75 ● 56-88		○ 96-63 ○ 82-70	○	4	6
6	カタール	● 43-95 ● 59-110	● 47-85	● 81-92	● 75-77 ● 39-65	● 70-82 ● 63-96		○	2	8
A4	タイペイ	● 66-104 ● 68-88	● 68-108 ○ 70-69	● 71-93 ● 83-90	○ 74-66 ● 53-83	○ 64-50 ● 76-82	● 66-77 ● 79-84		イラク	C4
		勝数 失点 得点	勝数 失点 得点	勝数 失点 得点	勝数 失点 得点	勝数 失点 得点	勝数 失点 得点			
		9 582 900	6 707 795	5 814 793	7 640 716	4 789 693	2 847 638			

日本（世界ランク 47 位）の残る二次予選日程

（世界ランクは 1 2 月 4 日に第 5 ウィンドウまでの結果を反映して更新されている）

第 6 ウィンドウ

〔アウェー〕 2019 年 2 月 21 日(木) vs イラン（世界ランク 26 位）

〔アウェー〕 2019 年 2 月 24 日(日) vs カタール（世界ランク 63 位）

ワールドカップ本戦出場の条件

中国で 2019 年 8 月 31 日から 9 月 15 日まで開催されるワールドカップ本戦に出場するには、グループ F の 3 位までか、4 位の場合はグループ E・F それぞれのチームの成績を比較した上位に入る必要がある。

日本は、残り 2 戦を連勝すれば 3 位が確保できる。カタールとの 1 勝は堅いと思はれるが、イランはフィリピンと 2 戦とも 8 点差で勝利している。日本は、フィリピンとの 2 戦を 5 点差・6 点差で敗れているが、この 2 戦ともファジーカスの参加がない。

〔ホーム〕でのイラン戦は 16 点差で勝利している。この試合は、ファジーカスが欠けていたが代わりにアイラが参加し、八村と渡辺、二人の留学組による活躍があった。来る 2 月の〔アウェー〕の試合では、ファジーカスの活躍で勝利を期待したい。

ファジーカスの加わった男子代表チームは、得点とリバウンドで大幅に力が付き、一試合 80 点以上の確保が容易になった。また、厳しいディフェンスが相手チームの得点を抑えている。更に、激しいディフェンスからの速攻もよい。男子代表選手の更なる飛躍を期待して、ワールドカップ本戦に参加するだけでなく、上位を狙いたい。それだけの力がついてきたと思う。

過去に話題に挙げられたが、日本選手のゴールに対する執着心が、外国の選手と比較して非常に弱いと感じる。リング近辺でのシュートにはファウルされても叩き込み得点するという強い気迫が必要で、これが足りないと思う。全員が気迫をもってリングに向かい得点してほしい。

1 敗してフィリピンと同じ勝数の場合、フィリピンに連敗なので 4 位が避けられまい。何とか勝数を稼ぎたい。4 位でグループ E に勝つためには得失点差にも留意が必要であろう。

東京オリンピック開催国枠の見込み

1 2 月 16 日の新聞報道によれば、FIBA のワイス財務部長は、2020 年東京五輪の 5 人制男子の開催国枠付与に前向きな考えを示し、「開催国枠を視野に入れている。」と述べたという。ワイス氏によると、FIBA は本年 3 月にコートジボワールで開かれる理事会で全種目の開催国枠を一括で審議する方針とのこと。良いニュースを期待したい。

第 9 4 回天皇杯・第 8 5 回皇后杯

全日本バスケットボール選手権大会の結果

[編集部]

正月恒例のこの大会のファイナルラウンドが、1月10日から13日まで、「2020 東京オリンピック」の会場となる「さいたまスーパーアリーナ」で開催された。

本大会の1次ラウンドは、11月発行プラザ80号でお知らせしたように、昨年、8月までに決定された各都道府県代表により、9月に3都市それぞれで東日本大会、中日本大会、西日本大会として開催され、2次ラウンドに進む男女各13チームを選抜した。

2次ラウンドは昨年12月にトップリーグチームを交えた男女で東北から四国にまたがる8都市で開催され、2次ラウンドの各ブロックを勝ち抜いた男女各8チームがファイナルラウンドで上述のように去る1月に埼玉県「さいたまスーパーアリーナ」で戦った。

結果的にファイナルラウンドへ出場したのは、2次ラウンドを勝ち抜いた男女各8チームだが、男子ではB1リーグ所属チーム、女子ではWリーグ所属チームのみであった。

かつて、世界選手権大会を開催したさいたまスーパーアリーナは、バスケットボールの収容人員が3万人を超える大きさで、大会場に慣れていない上階自由席の観客は「選手がマメ粒のようでプレーがよく分からない」という声も。以前代々木第一体育館で開催されてきた雰囲気と比べると、会場が大きい分コートが小さく見え、中には「臨場感がイマイチかなー」と感想を漏らす人もいた。

2次ラウンド以降の結果を以下に報告する。

<2次ラウンド>

男女ともトップリーグチームが出場参加する2次ラウンドは、去る12月1日、2日、全国を8ブロックに分け、下記都市で開催された。参加チームは、1次ラウンドでの勝者13チームに、男子はBリーグの18チームを加えた31チーム、女子はWリーグ12チームを加えた25チームである。2次ラウンドでブロックごとに勝利した1位チームがファイナルラウンドへ出場する。

開催地	都市	アリーナ
岩手	岩手県奥州市	奥州市総合体育館 Zアリーナ
栃木	栃木県宇都宮市	ブレックスアリーナ宇都宮
神奈川	神奈川県平塚市	トッケイセキュリティ平塚総合体育館
愛知	愛知県刈谷市	ウィングアリーナ刈谷
京都	京都府京都市	島津アリーナ京都
大阪	大阪府大阪市	おおきにアリーナ舞洲（旧 府民共済SUPERアリーナ）
徳島	徳島県鳴門市	鳴門県民体育館 アミノバリューホール
愛媛	愛媛県松山市	愛媛県総合運動公園体育館

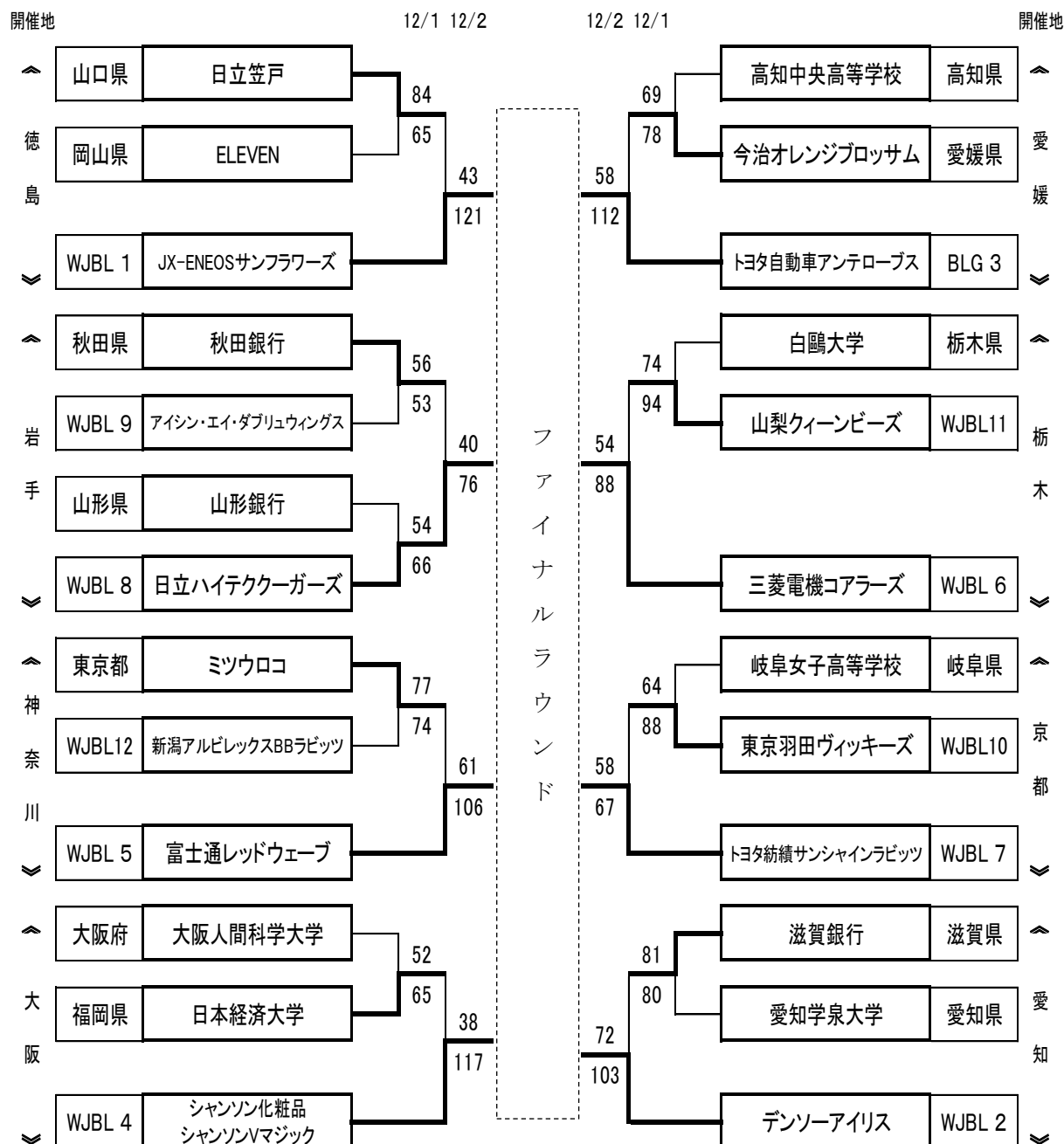
2次ラウンド男子結果

Bリーグチームが順当に立ち上がったが、リーグ8位の名古屋が9位渋谷に85-92で敗れ、4位琉球が13位大阪に74-77の接戦で、Bリーグ上位チームが下位チームに敗れてファイナルラウンド出場を逸している。また、1次ラウンド出場チームとBリーグ2部チームが2次ラウンドを突破することはなかったが、愛知県代表のリントツがBリーグ3位の三河に72-87と善戦しているのが目立つ。

開催地		12/1	12/2		12/2	12/1		開催地
↑	兵庫県	信和建設(株)	80	ファイナルラウンド	73	秋田ノーザンハピネッツ	BLG18	↑
神	BLG16	横浜ビー・コルセアーズ	112		62	滋賀レイクスターズ	BLG14	愛
奈			60		56			知
川			120		79			
↓	天皇杯優勝	千葉ジェッツ			72	リントツ	愛知県	
					87	シーホース三河	BLG 3	↓
↑	岡山県	ファイサンス岡山	49					↑
徳	BLG 9	サンロッカーズ渋谷	113		60	京都産業大学	京都府	
島			92		87	レバンガ北海道	BLG11	京
	福岡県	福岡第一高等学校	69		83			都
↓	BLG 8	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	110		89	天理大学	奈良県	
					68			
↑	秋田県	JR東日本 秋田ベッカーズ	52		86	京都ハンナリーズ	BLG 6	↓
岩	BLG12	三遠ネオフェニックス	95					↑
手			72		59	白鷲大学	栃木県	
	埼玉県	曙ブレーキ工業	52		92	新潟アルビレックスBB	BLG10	栃
↓	BLG 5	川崎ブレイブサンダース	117	77			木	
			82	82	黒田電気 Bullet Spirits	東京都		
↑	熊本県	東海大九州	68	70			↓	
大	BLG13	大阪エベッサ	96	99	栃木ブレックス	BLG 7		
阪			77				↓	
	佐賀県	佐賀BALLOONERS	51				↑	
↓	BLG 4	琉球ゴールデンキングス	110					
			74				↑	
							愛	
							媛	

2次ラウンド女子結果

女子も、Wリーグチームが順当に勝ち上がった。1次ラウンドからの出場チームでは秋田県代表の秋田銀行がWリーグ9位アイシン・エイ・ダブリュを56―53で破り、東京都代表のミツウロコも12位新潟を77―74で破る快挙をなしたのが特筆される。しかし、秋田銀行は8位の日立ハイテクに40―76で、またミツウロコは5位富士通に61―106で惨敗し、ファイナルラウンド出場はならなかった。



＜ファイナルラウンド＞

さいたまスーパーアリーナで開催されたファイナルラウンドは、2次ラウンドを突破した男女各8チームによって最初から熱戦が繰り広げられた。1回戦が準々決勝という一発勝負のトーナメント戦とあって、各チームとも気の抜けない真剣勝負になり、緊張感漂う試合が展開された。

男子では昨年優勝の千葉とリーグ戦5位の川崎の試合が注目されたが、千葉が3点差で辛くも逃げ切り、7位栃木と9位SR渋谷の対戦は6点差で栃木が勝利、各々準決勝へ進出した。

女子では目立った接戦はなく、リーグ戦上位チームが順当に勝ち進んで準決勝へ進出した。その中でリーグ4位のシャンソン化粧品が強豪JX-ENEOSに果敢に挑んだが、後半突き放されて完敗となった。

準決勝戦 1月12日（土）

女子準決勝

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
デンソー	16	12	16	16	60
トヨタ自動車	19	19	22	11	71

出だしトヨタは#2長岡、デンソーは#13伊集のシュートで始まったが、その後両チームとも激しいディフェンスによって決定的な抜け出しはなかった。

第2クォーターに入ると、トヨタ#23山本の3ポイントシュートに続き、#15安間のフリースローなどで一歩前へ出る。対するデンソーは#8高田を軸に対抗するが、この高田のインサイドプレーにこだわったパスにミスが出て得点が伸びない。トヨタは#2長岡のフックシュートなどで加点してリードを広げるが、終盤になってデンソーも#13伊集の速攻や#12赤穂のシュートで追い上げ10点差で前半を終わる。

後半デンソーのゾーンディフェンスが甘くなり、トヨタは#0馬瓜、#2長岡、#12三好が3ポイントシュートを決めて一挙に点差が開く。デンソーも#8高田らのインサイドで頑張るが外角からの3ポイントシュートが決まらず、#0馬瓜らが執拗な攻撃を仕掛けるトヨタとの点差を詰めるには至らない。

第4クォーター、インサイドの#8高田にボールを集めて反撃したいデンソーだったが、トヨタのディフェンスに阻まれてパスが思うように通らず、逆にトヨタ#2長岡や#0馬瓜に3ポイントシュートを決められ勝負ありの感。デンソーは終盤に#88赤穂がドライブインを決めて気を吐いたが及ばず、11点差でトヨタが5年ぶりに決勝へ進出した。

この試合のシュートを見ると、2ポイントではデンソーが44.4%で上回ったが、3ポイントでトヨタの31.8%に対しデンソーは1本のみ成功の7.7%で、これが勝敗と得点数に大きく影響した。

女子準決勝

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
富士通	18	17	20	22	77
JX-ENEOS	21	23	21	26	91

前半こそ富士通がポイントガード#10町田を中心に踏ん張ったが、JXが徐々にスピードある攻撃と厳しいディフェンスで主導権を握り、結果的に大差がつく試合となった。

J Xは第4クォーター半ばまで攻守とも手を緩めることなく、#10 渡嘉敷 23点、#52 宮澤 28点、#25 石原 13点と猛攻、#12 吉田も3ポイントシュート3本中3本を成功させ11点を叩き出した。

対する富士通はポイントガード#10 町田が3ポイント4本を含む33得点を挙げて踏ん張ったが、全体的にミスを多発して敗れた。この試合、ターンオーバーが富士通16に対してJ Xは僅か6と少なく、相手のミスを確実に得点へと結びつけていたJ Xの圧勝。3ポイントシュートでは富士通が52.4%とJ Xの36%を上回ったが、2ポイントシュート確率とリバウンド数でJ Xが上回り、更に前述のターンオーバー数の差が勝敗に大きく影響した試合であった。

男子準決勝

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
栃木ブレックス	21	13	18	19	71
京都ハンナリーズ	14	15	19	14	62

出だし京都は全体的に歯車がかみ合わず個人プレーが目立って得点が伸びない。対する栃木は#13 渡邊の3ポイントシュートや#9 遠藤のミドルシュートなどで得点したが、両者ともに雑なプレーとシュートミスが多く、ぎくしゃくした展開。

第2クォーターに入ってもお互いにシュートミスが出て重苦しい展開が続く。中盤になって京都#7 晴山が3ポイントシュートを2本決めて23-27と4点差に詰め寄ると、にわかに点の取り合いとなり、替わって入った京都#91 片岡が速攻を決めて試合は盛り上がり、34-29と栃木が5点差のリードとする。

後半栃木がディフェンスを強めたこともあって、又もや京都が攻めあぐねている間に栃木は得点するが、さほど得点は伸びず半ば膠着状態となる。第3クォーター終了間際に京都は#33 内海の3ポイントシュートと#23 モリスのインサイドプレーからの得点で48-52と栃木に肉薄する。

勝負となった第4クォーター、京都はモリスのフリースローで50-52と2点差にせまったが、その後中盤までお互いに決め手を欠いて得点が伸びない。接戦ともいえる中、先手を取ったのは栃木で#10 竹内が4分過ぎに得点すると、その後すぐに#9 遠藤が速攻を決めて61-53とする。京都も負けじと得点を重ね残り2分に59-66と迫ったが、栃木はロシターがしっかりとドライブインシュートを決めて突き放し、71-62で勝利して3年ぶりに決勝へ進んだ。この試合京都は、第2クォーターから怪我によってポイントガードの#3 伊藤を交替させなければならなくなり、攻撃がチグハグとなったことが痛い。

男子準決勝

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
アルバルク東京	13	22	22	22	79
千葉ジェッツ	20	21	21	18	80

開始早々から#2 富樫がリードしてパスがよく回る千葉に対して、アルバルクは千葉の執拗なディフェンスによるミスが目立って、開始5分過ぎで#2 富樫のシュートやアシストなどによる千葉の17得点に対して6点しか入らない。その後お互いに派手なプレーが出てダンクシュートの応酬となるが、堅実に得点を重ねた千葉が第1クォーターで7点リードする。

第2クォーター、千葉#5 田口が3ポイントシュートを決めるがアルバルクは思うようにシュートが入らない。しかしアルバルクは中盤から#24 田中が奮起してスティール、そして速攻を2本決めると勢いづき、#31 ウィリアムスの3ポイントシュートなど開始4分で4点差に迫る。

しかし千葉も#27 石井の3ポイントシュートや#3 パーカーの速攻など多彩な攻撃で残り3分に39-29とリードを奪う。するとアルバルクも馬場のスティールから速攻を決めるなどして食い下がり35-41と6点差で前半を終える。

後半に入った途端、千葉、アルバルクともにシュートが冴えて入れ合いとなり、開始3分に千葉が46-40とリード、5分には50-46と千葉リードながらも点差が詰まった後、千葉#2 富樫が貴重な3ポイントシュートを成功させ53-46とする。その後千葉#21 エドワードがダンクシュートを決めて57-49となったところでアルバルクがタイムアウト、体制を立て直したアルバルクが相手ミスからの速攻を続けて決め、62-57の5点差で勝負は最終クォーターへ。

第4クォーター、アルバルクは開始早々竹内の3ポイントシュートで2点差に迫り、更に#6 馬場が速攻、フリースローを決めて65-64と逆転に成功する。すると千葉も#2 富樫が3ポイントシュートを2本決めて再逆転するが、アルバルクも#24 田中が3ポイントシュートを入れ返して又再逆転、両者の重なる再逆転に場内は騒然となる。

残り1分アルバルク#53 カークがフリースロー2本を決めて79-75となったときは、誰もが千葉はこれで終わりかなと思ったであろう。しかし千葉は早い攻撃から#21 エドワーズのフリースローで76-79の3点差、その後アルバルクのパスをカットした千葉が#3 パーカーのゴール下シュートで79-78の1点差に迫る。残り30秒、タイムアウト後のアルバルクはボールを保持してストーリング後シュートに持ち込むが、これを千葉#3 パーカーが空中で叩き落とすと、拾ったボールを#2 富樫が前へパス、一度はシュートがはずれたものの、走ってきた#3 パーカーがゴールへねじ込み、残り0.5秒での大逆転劇となって千葉の連続決勝進出となった。

バスケットボールは最後までなにが起きるのかわからないから、最後まで全力で戦えとよく言われるが、本当にバスケットボールの怖さを知らされた一戦であった。

決勝戦 1月13日(日)

女子決勝

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
トヨタ自動車	19	14	13	19	65
JX-ENEOS	24	24	23	15	86

5年ぶりに決勝まで駒を進めたトヨタがJXにどう挑むかが注目された一戦、トヨタは#2 長岡、#0 馬瓜らが要所でシュートを決めて第1クォーターは9分まで互角の展開となった。残り1分JX#52 宮澤が3ポイントシュートを打つ、これを何とか阻止しようとしたトヨタのディフェンスの手が宮澤の手を叩きバスケットボールカウントに、宮澤はフリースローも決めて一挙に4点を奪うと、JXが厳しいディフェンスからリバウンドを取って次々と走って得点する。

第2クォーター早々、アウトになりそうなボールにラインを越えて飛びついた宮澤が味方にパス、速攻かと思いきや#12 吉田が後から来る味方を待つと、走ってきた宮澤がサイドギリギリから3ポイントシュートを成功させた。勢いづいたJXは、それから渡嘉敷ら

の4連続得点でトヨタを引き離し、4分には36-21と大量リードを奪う。

こうなると試合のペースは益々JXに傾き、終盤トヨタが盛り返したものの、48-33とJXが15点をリードして前半を終える。

第3クォーター、トヨタは何とか巻き返そうと3ポイントシュートを多発するがこれが決まらず、逆にJXが強力なリバウンドから手早くボールを回し、替わって入った#33 梅沢や#11 岡本が左右両サイドから3ポイントシュートを決める。トヨタは終了間際によりやく3ポイントシュートを決めるが、点差は拡大し73-46でJXのワンサイドゲームとなる。

第4クォーターに入るとJXは主力をベンチへ下げる余裕、それでも戦力は互角でほぼそのままの点数差でJXが勝利した。

ちなみにこの試合の3ポイントシュート成功率は、JXの42.1%に対してトヨタは8.7%、リバウンドはJX51本に対してトヨタは34本とデータ的にも差が開いている。

JXは前身の共同石油、JOMO時代を含めてこれで23回目の優勝、全日本選手権は今回で6連覇の偉業を成し遂げた。中心選手に加えて、若手も成長しスピードバスケットと3ポイントシュートに磨きをかけ、他チームを寄せつけない強さを発揮している。

男子決勝

	Q1	Q2	Q3	Q4	OT1	計
栃木ブレックス	17	15	15	13	9	69
千葉ジェッツ	13	13	21	13	11	71

男子決勝戦は3連覇を狙う千葉と6年ぶりに決勝へ進出し初優勝を狙う栃木との一戦。

開始早々得点を奪ったのは千葉#21 エドワーズだったが、そこからは栃木のゾーンディフェンスを崩せずシュートが決まらない。対する栃木はペースをつかみ、#9 遠藤が2本の3ポイントシュートを決め5分には11-4と一歩リードする。

終盤になって千葉のインサイド陣の動きが良くなり、外角からのシュートも決まって追い上げに入り、17-13と栃木リードで第1クォーターを終わる。

第2クォーター当初も両者ともシュートが決まらずロースコアのままの試合展開となる。重苦しい中で栃木は中盤に差し掛かったとき、#21 ロシターが3ポイントシュートを決めると、#10 竹内がオフェンスリバウンドからシュートを決め24-18と勢いづき、連続11得点で9分過ぎに30-18とリードを広げる。

第3クォーター、開始早々から栃木は#4 ギブスのシュートと#9 遠藤の3ポイントシュートで千葉を突き放す。しかし千葉は諦めることなく、インサイドにボールを集め#21 エドワーズらが3ポイントシュートを含めた得点で追い上げ、4分に38-38の同点に追いつく。

ここからは両者とも必死の形相で攻守し一進一退の展開、栃木が#21 ロシターがドライブからダンクシュートを決めると、千葉も替わった#34 小野が3ポイントシュートを決め、#21 エドワーズのフリースローも成功して47-47の同点でこのクォーターを終わる。

決戦となった第4クォーター、千葉が走るバスケットを展開、富樫に替わって入った#11 西村が全開、3ポイントシュートを含む7得点で気を吐く。リードされた栃木も必死で#10 竹内バスケットカウントや#22 ロシターがオフェンスリバウンドをねじ込むなどして7分に57-57の同点とする。競り合う中の残り1分栃木#13 渡邊がアンスポーツマンファウルを宣告され、千葉のフリースローとボールポジションとなり栃木のピンチ、しかし千葉#22 チェンバースのフリースローが1本しか入らず、その後のオフェンスも失敗で60

ー59と千葉のリードは1点。その後栃木は#4 ギブスがフリースローを得たがこれも1本しか入らず、60ー60で延長戦へ。

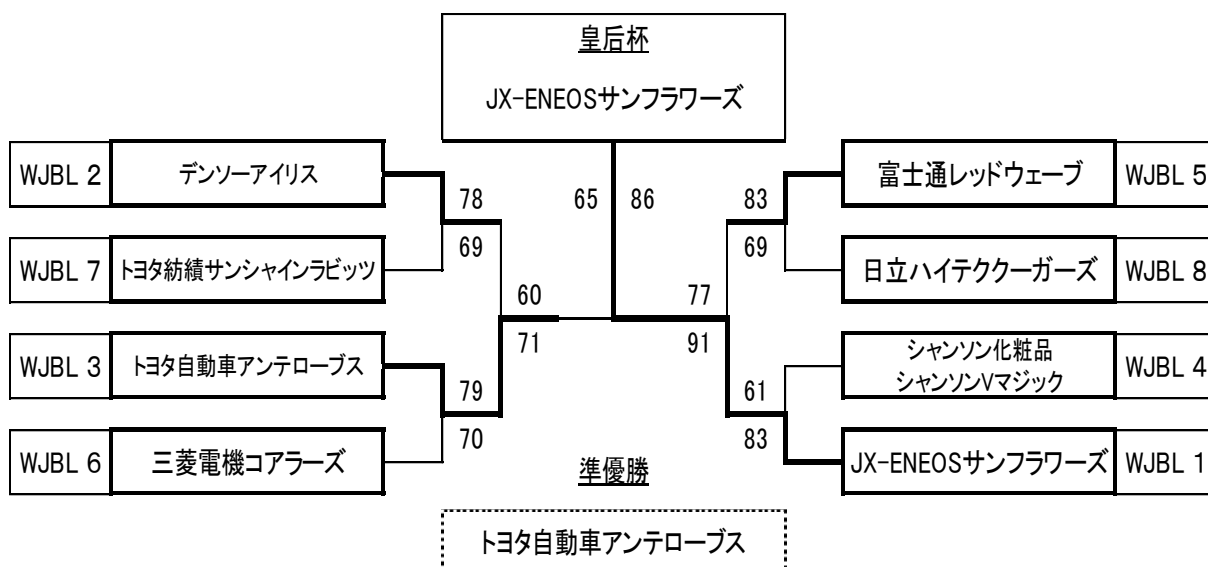
延長戦で先手を取ったのは栃木で#18 鵜が3ポイントシュートを決めるが、千葉も#21 エドワーズのバスケットボールカウントで追いつく。その後栃木#4 ギブスや千葉#1 ダンカンが5ファウルで退場となり益々混戦となる。

残り16秒栃木は#21 ロシターがフリースローを2本決めて70ー69と1点リードする。その後スローインした千葉がどう攻めるのかが注目されたが、ボールを保持した#2 富樫がスクリーンから一瞬ディフェンスを外して3ポイントシュートを打ち、これがリングに吸い込まれて千葉が再逆転、最後は劇的な幕切れとなった。千葉は全日本選手権3連覇。

接戦となったこの試合のデータを見るとほぼ互角だが、いつものようにフリースローの確率が低いことが気にかかる。

	栃木ブレックス	千葉ジェッツ
3ポイントシュート成功率	27.3%	27.3%
2ポイントシュート成功率	35.1%	51.2%
フリースロー成功率	50.0%	75.0%
リバウンド数	51	41
ターンオーバー数	10	14

<女子結果>



女子個人賞

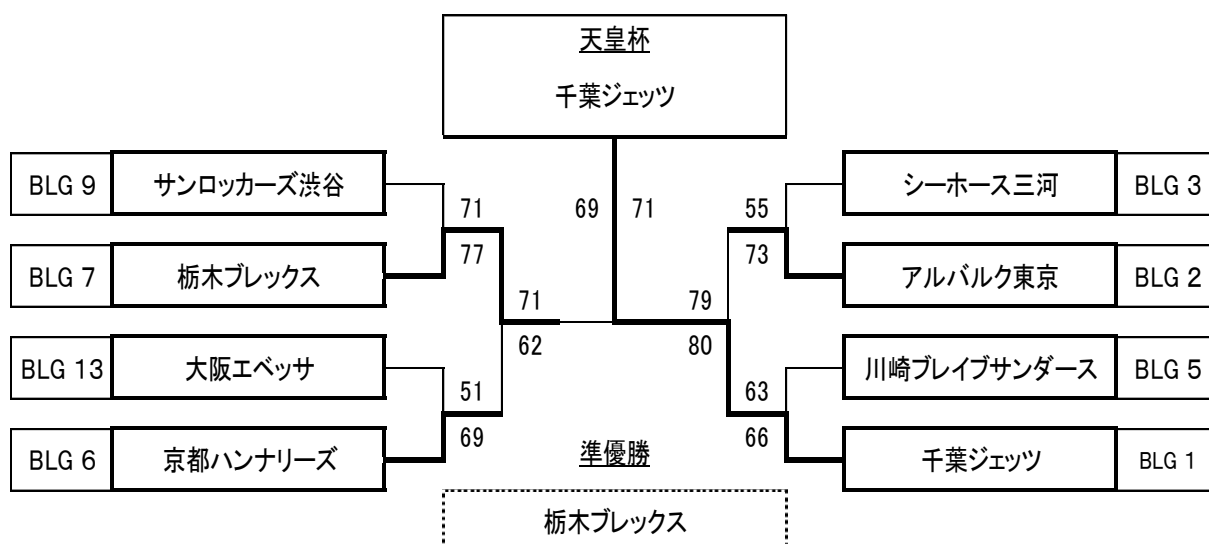
MVP

宮澤 夕貴 J X-E N E O S サンフラワーズ 2年連続2回目

大会ベスト5

氏 名	チーム	備 考
渡嘉敷 来夢	J X-E N E O S サンフラワーズ	9年連続9回目
宮澤 夕貴	J X-E N E O S サンフラワーズ	3年連続3回目
馬瓜 エブリン	トヨタ自動車アンテロープス	初受賞
長岡 萌映子	トヨタ自動車アンテロープス	2年ぶり4回目
町田 瑠唯	富士通レッドウエーブ	初受賞

<男子結果>



男子個人賞

MVP

富樫 勇樹 千葉ジェッツ 初受賞

大会ベスト5

氏 名	チーム	備 考
富樫 勇樹	千葉ジェッツ	2年ぶり2回目
キャビン・エドワーズ	千葉ジェッツ	2年連続2回目
遠藤 祐亮	栃木ブレックス	初受賞
ライアン・ロシター	栃木ブレックス	3年ぶり2回目
馬場 雄大	アルバルク東京	初受賞

SoftBank ウインターカップ 2018

第 7 1 回全国高等学校バスケットボール選手権大会結果

[編集部]

年末恒例のウインターカップ、全国高等学校バスケットボール選手権大会は、例年の東京体育館が改修工事のため、武蔵野の森総合スポーツプラザ（東京都調布市）で年末 12 月 23 日から 29 日まで開催された。

全国高校選手権大会の参加チームは、例年通り、男女それぞれ 47 都道府県の各代表に高校総体 1 位、2 位と開催地東京の 3 チームが加わり 50 チーム、合計 100 チームである。

男子は、福岡県代表の福岡第一が 2 回戦から大差で連勝して優勝した。準優勝は高校総体 2 位で愛知県の中部大学第一、3 位は愛知県代表の桜丘となった。これら上位 3 チームは危なげなく準決勝戦まで勝ち進んだ。4 位の帝京長岡は 3 回戦で、開催地東京都の八王子学園八王子と 72 - 72 の同点で延長戦となった結果、85 - 77 と辛勝している。

福岡第一は、県代表決定戦で昨年のウインターカップ準優勝の福岡大学附属大濠を 79 - 71 で破り、本年天皇杯 1 次ラウンドを勝ち抜いて 2 次ラウンドに進み、B リーグ 8 位の名古屋に 69 - 110 で惨敗している。夏の高校総体では、チームの柱で今回のベスト 5 に選ばれた #8 川村と #24 松崎がタイ・バンコックでの F I B A U 18 アジア選手権 2018 に参加して欠けており、緒戦で苦杯を飲まされている。この残留選手の奮起と B リーグ名古屋との対戦が高校チームを超えるような今回の大躍進に結びついたものと思われる。本大会で注目されるのはベスト 5 にも選ばれた桜丘主力の 188 cm #7 富永で、その 3 ポイントシュートによる得点力は他を圧倒し観客の視線を集めていた。

女子は、高校総体 2 位の岐阜県岐阜女子が他を圧倒して勝ち進んで優勝し、準優勝が大坂代表の大坂薫英女学院、3 位は千葉県代表の昭和学院となった。高校総体 1 位で二冠を目指す愛知県の桜花学園は、準々決勝で今回 3 位の昭和学院に 73 - 75 のスコアで惜敗した。昭和学院としては、高校総体の 2 回戦で桜花学園に 63 - 64 と逆転されており、その雪辱戦でもあった。高校総体準決勝で桜花学園に敗れた三重県代表の県立四日市商業は 3 回戦で高知県代表の高知中央に 77 - 78 で惜敗し、この高知中央は今回 4 位の石川県代表県立津幡に 61 - 64 で惜敗している。

今回準優勝の大坂薫英女学院は、3 回戦で神奈川代表のアレセイア湘南を 65 - 60、準決勝で昭和学院を 64 - 61、それぞれ僅差で勝利して決勝に臨んでいる。県立津幡は 3 位決定戦で昭和学院に 66 - 70 で惜敗しているが、2 回戦で、昨年準優勝の愛知県代表安城学園に 67 - 65 と接戦しており、上記の高知中央戦とともに女子は見ごたえある好ゲームが多かった。

男子、女子のベスト 5 は各決勝戦の記事に続いて記載する。

次に、準々決勝までの上記接戦ゲームはスコアのみを示す。

男子三回戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	OT1	計
八王子学園八王子	18	11	27	16	5	77
帝京長岡	23	12	16	21	13	85

女子三回戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
県立四日市商業	22	29	16	10	77
高知中央	18	18	25	17	78

女子三回戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
アレセイア湘南	17	10	16	17	60
大阪薫英女学院	12	17	16	20	65

女子準々決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
桜花学園	22	12	23	16	73
昭和学院	26	16	16	17	75

以下に、男子・女子準決勝以降の戦況概要を説明する。

<男子>

男子準決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
桜丘	26	22	9	15	72
福岡第一	26	20	31	26	103

第1クォーター残り4分で8-18と引き離された桜丘は福岡第一のシュートミス拾って連続シュートを決め、残り1分半頃に23-21と逆転するが、その後の入れあいで同点に終わる。第2クォーターは激しい攻防戦となり、まず福岡第一が得点して、桜丘はその得点を追いかける展開。桜丘は、残り3分ほどで#7富永がフリースローを連続決めて逆転した後、得点の応酬があったが、48-46と2点のリードで前半を終わる。

後半、福岡第一は、激しいディフェンスからの速攻で残り7分半頃に52-51と逆転した後、速攻から連続得点すると共に桜丘に無理なシュートを打たせるという本領を発揮して一気に引き離し大勝した。

桜丘は、ポイントゲッターの#7富永が37得点して気を吐いたが、リング下近辺では福岡第一の厳しいディフェンスに得点を阻まれていた。福岡第一は192cm #24松崎と203cm #60スティーブが各25点と圧倒的得点力を見せつけている。

男子準決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
帝京長岡	13	19	18	8	58
中部大学第一	18	23	25	13	79

中部大学第一は、第1クォーターで点の取り合いから一歩抜け出す。平均身長181cmの帝京長岡は、得点を重ねる平均身長188cmの中部大学第一を追いかけるが、身長差に劣るためリング下で攻めきれず、徐々に引き離されて敗退する。

帝京長岡は、#14 カンディオウラが19得点、#12 品川が18得点するが、フリースロー成功率56%はいただけない。中部大学第一は#4 中村が29得点すると共に、チームの3ポイントシュートが55%と高確率であった。

男子三位決定戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
桜丘	19	20	18	19	76
帝京長岡	12	13	17	23	65

桜丘が先行し、帝京長岡が追いかける様相。桜丘は第1クォーターの残り1分ころ11-12とされたが、直ちに逆転する。第2クォーター以降、帝京長岡は、後半に点差を詰めたときがあったが桜丘を攻めきれず、敗退した。

桜丘のポイントゲッター#7 富永は46得点であった。帝京長岡は、#14 ケイタが29得点したが、シュート成功率が低い。帝京長岡は得点能力の向上が望まれる一戦であった。

男子決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
福岡第一	16	23	23	23	85
中部大学第一	12	9	10	11	42

福岡第一は、激しいディフェンスから速攻につなぎ、得点を重ねるゲーム展開が冴え、第1クォーターを除き、各クォーターで23得点をあげて完勝した。中部大学第一は、リング下のシュートも決めきれずダブルスコア負けという汚名を負った。

福岡第一は、#24 松崎が21得点、その他の2名が16得点し、3ポイントシュート成功率が39%と、決勝戦を最高のパフォーマンスで結んだ。中部大学第一は#4 中村が最多15得点であり、3ポイントシュート10%、2ポイントシュート32%、フリースロー38%と低成功率であったのは決勝戦に相応しくない結果であった。

男子のベスト5

- #8 河村 勇輝 (福岡第一 2年)
- #24 松崎 裕樹 (福岡第一 3年)
- #4 中村 拓人 (中部大学第一 3年)
- #7 富永 啓正 (桜丘 3年)
- #14 ケイタ カンディオウラ (帝京長岡 3年)

<女子>

女子準決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
昭和学院	21	14	5	21	61
大阪薫英女学院	8	17	24	15	64

第1クォーター、昭和学院が着実に得点するのに対し、大阪薫英女学院はフィールドスローが決められず13点のビハインドとなる。第2クォーター、残り6分ほどで昭和学院のリバウンドと速攻により17点差まで開いたが、大阪薫英女学院は、厳しいディフェンスで昭和学院を抑えて10点差に詰め、15-35と20点のビハインドで前半を終える。

後半、大阪薫英女学院はゾーンディフェンスで守ると共にシューターの#4北側、#7清水、#6盛岡によるシュートも決まり始める。一方の昭和学院はシュートが決まらず、第3クォーター残り5分ほどで40-40と同点、更に逆転されて40-49と9点のビハインドとなる。第4クォーター、大阪薫英女学院は3ポイントシュートも決まり残り7分には11点差までリードを拡げるが、昭和学院も連続得点で残り6分には8点差と詰め寄る。その後、大阪薫英女学院は昭和学院を抑えたが、残り2分半で昭和学院 166 cm #6 西江の連続シュートが決まり3点差まで詰められ、辛うじて決勝に進んだ。

両校のスタッツはほぼ同一の数値であるが、大阪薫英女学院では#4北側、#6盛岡、#7清水の3名で49点を稼ぎ、昭和学院は5名がそれぞれ11~13得点して合計59点を挙げている。

女子準決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
県立津幡	12	16	22	20	70
岐阜女子	28	14	26	18	86

岐阜女子は、完ぺきといえるオフェンスとディフェンスで初戦から完勝を続けており、この一戦でも第1クォーターに16点差で勝負を決めると、最後まで余裕をもって戦い、結果、16点のリードで終わる。

県立津幡は3ポイントシュートが2本のみであり、180 cm #10 中道は31点を稼ぐ。一方、岐阜女子は、2年生 188 cm #7 ダフエに代わり出場の1年生 184 cm #8 カンソが2ポイントシュートで26点を挙げる。しかし、#8 カンソはフリースローでミスが多いのは残念。

女子三位決定戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
昭和学院	14	15	17	24	70
県立津幡	17	24	15	10	66

第1クォーター、双方シュートが決まらず残り5分で5-5の同点とロースコア。第2クォーターの残り4分半、23-23の同点から県立津幡は3ポイントシュートとセンターがリング下で連続得点して31-23と8点のリードとする。昭和学院は、相変わらずシュートを決められず、前半を29-41と12点のビハインドで終わる。

第3クォーターは双方ともに低得点で推移。第4クォーターに入ると、県立津幡は昭和学院の激しく動くディフェンスに得点できず。昭和学院は残り3分半に#8大竹が外郭からのシュートを決めて64-63と逆転する。残り2分、県立津幡は追いつき66-66とするがその後の3ポイントシュートを外したのに対し、昭和学院はリング下のシュートを#7増田が確実に決めると共に、仕掛けられたファウルゲームも2本のフリースローを#11星が決め、4点のリードで三位を確保した。

昭和学院は相変わらず#11星が22点を#7増田が13点をとシューターが稼ぎ、県立津幡は#10中道が26点、#4清水が22点を挙げている。チームの3ポイントシュート成功率は、昭和学院の17%に対し、県立津幡は40%と健闘している。

女子決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
大阪薫英女学院	19	17	18	20	74
岐阜女子	26	22	19	25	92

10点以上の差をつけて決勝戦まできた岐阜女子と、3回戦でアレセア湘南に65-60、準決勝戦で昭和学院に64-61と厳しい試合を経て勝ち上がった大阪薫英女学院との決勝戦は、岐阜女子が攻守ともに余裕あるプレイで大阪薫英女学院を終始圧倒する。

大阪薫英女学院は敗戦にかかわらず、#7清水が23得点、他の3名で45得点しており、更にこの4名が6本のフリースローを全て決めているのは素晴らしい。一方の岐阜女子は、#7ダフェが31得点、#4池田が22得点し、また、チームとしての3ポイントシュートは5本と少ないがそのうち3本が決められている。

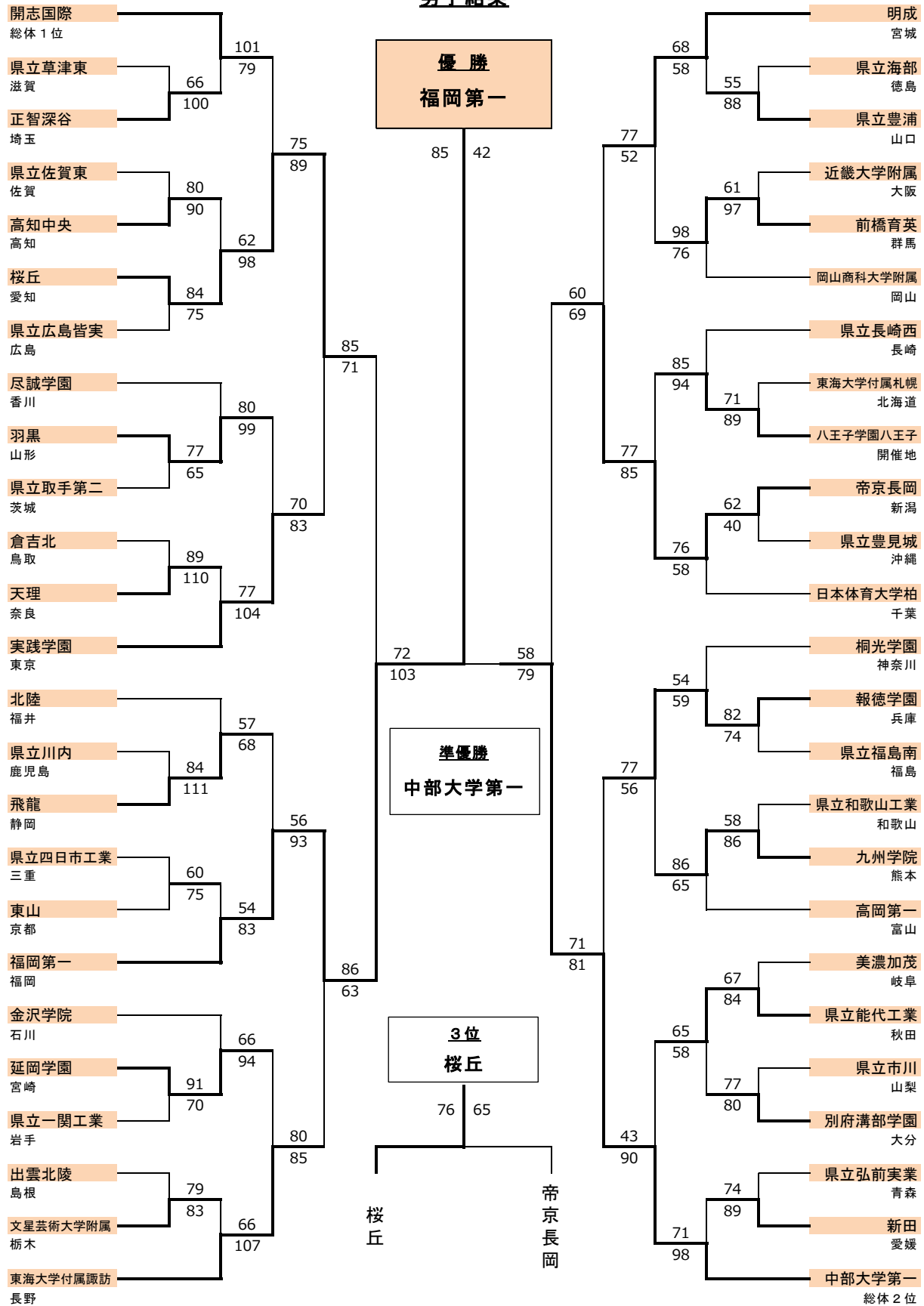
女子のベスト5

- #4 池田 沙紀 (岐阜女子 3年)
- #7 ハディ ダフェ (岐阜女子 2年)
- #3 清水 咲来 (大阪薫英女学院 3年)
- #11 星 杏璃 (昭和学院 3年)
- #10 中道 玲夏 (県立津幡 2年)

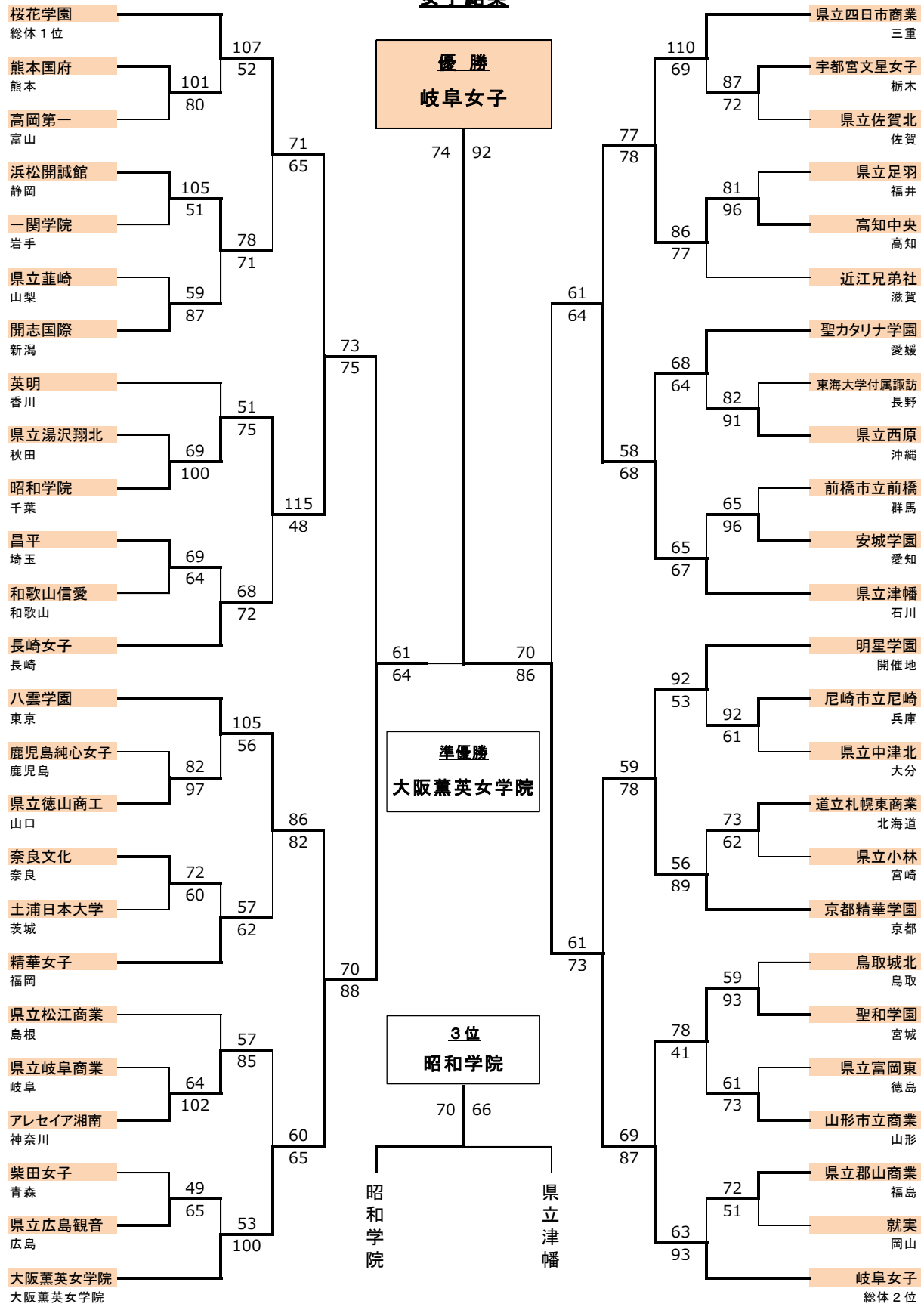


武蔵野の森総合スポーツプラザ（メインアリーナ2階正面入口を臨む）

男子結果



女子結果



1976 年モントリオールオリンピック（その 2）

出場男子オリンピックの座談会

[歴史部]

去る 7 月 17 日、モントリオールオリンピック（1976 年 7 月）に参加の男子日本代表チームから、監督を務められた吉田正彦氏、選手の阿部成章氏、千種信雄氏、結城昭二氏、桑田健秀氏、及び斎藤文夫氏、6 名の方々にご参集頂き座談会を開催しました。

前号での前半に引き続き、今回は後半を紹介します。（以下、敬称略）

第 21 回オリンピック・モントリオール（成績等の詳細は次号末尾に付記の予定）

バスケットボール開催日：1976 年 7 月 18 日～27 日（現地時間）

バスケットボール男子日本代表チーム主要メンバー

	氏名	当時の所属	座談会出欠
監督	吉田 正彦	日本鋼管	出席
選手	阿部 成章	日本鉱業	出席
	北原 憲彦	明治大学	
	桑田 健秀	日本鋼管	出席
	斎藤 文夫	中央大学	出席
	清水 茂人	中京大学	（逝去）
	千種 信雄	住友金属	出席
	沼田 宏文	松下電器	
	浜口 秀樹	拓殖大学	
	藤本 裕	日本鋼管	（逝去）
	森 哲	住友金属	
	山本 浩二	日本鋼管	（逝去）
	結城 昭二	住友金属	出席・振興会会員

選手名は五十音順



座談会のオリンピック 左側端から 桑田、吉田、阿部、千種、結城、斎藤

<前号座談会発言から続く>

【斉藤】



私は学生で選ばれて、正直言ってキャリアもあまりなく、最初のころはついて行くだけ。必死でしたね。確かに身長は高かったけれど自分の武器というものもなかったし、当初はどうしたらいいのだろうと思いがずっとありました。そこから様々なことを経験させてもらい、パナソニックに入社してからはずっと勝たせてもらいましたけれど、基本的なベースとなっているのはモントリオールまでの4年間です。この時期がなかったらただの「でくの坊」で終わっていたと思いますよ。フックシュートを教わったり、レイアップシュートのタイミングをずらしたりと工夫することを覚えたおかげで、長く現役をやらせてもらいました。モントリオールに関する活動で一番の思い出はアメリカ遠征ですね。NBA選手がオフということもあって、お手伝いにやって来てくれたのですが、毎日「今日はコートに行きたくない」と思うほどにボコボコにされました（笑）。もう今日はバスケットをしたくないと思うくらいのレベルです（笑）。それでもオリンピックに行ってみると、「世界はすごい。自分はまだ甘いな」と思われるのです。特に、ソ連には225cmの選手が2人もいて驚きましたね。北原と「お前、どっちにつく?」「どっちだって一緒だよ」と半ばやけくそで話しました（笑）。

【結城】



話をミュンヘンオリンピック（1972年）に遡らせていただいてもよろしいでしょうか。大学4年生のときの強化合宿に参加し、毎日死ぬ物狂いで練習しました。強化合宿の最終日にメンバー入りの報をコーチから聞いたときの喜びは、口では言い表すことができません。ところが翌日新聞を開いてみると、代表メンバーに自分の名前がなく、「1名は未定」との一文が。さらに翌日の新聞には、あろうことか別の選手の名前が記されていたのです。こんなことがあっていいのかと思いましたし、今でもこの悔しさは忘れていません。大好きなバスケットボールがそうではなくなってしまった大きなきっかけでした。

モントリオールの選考に差し掛かった時も、正直ミュンヘンのダメージから回復しておらず、バスケットを心からしたいとは思えずにいました。しかし時が過ぎ、住友金属で吉井四郎先生や高いレベルのチームメートたちに恵まれ、徐々に心の傷が癒されていきました。目指すはオリンピックの出場権。みな必死でしたし、当然自分も「ここで負ければミュンヘンの屈辱を晴らすことができない」と同じ気持ちでした。

ただ、そのあとのオリンピックまでの1年間の記憶が実はあまりないのです。オリンピック出場の達成感で、心身ともに力を使い果たしてしまったからではないかと思います。もちろん、オリンピックは国の代表ですから、その心構えは忘れてはならないと思っていましたよ。

私のバスケットボール歴は約15年。その間、長期短期合わせると約20名のコーチから指導を受けました。その中で自分を成長させてくれた指導者は4人に絞られます。京北高校の水野俊文さん、中央大学の野口政勝先生、住友金属の吉井先生。そして全日本の吉田さん。吉井先生と吉田さんは結果を出してくれたということもありますが、なぜか不思議に人を引き付ける独特の魅力もありました。

【千種】

当時は考えもしなかったですが、現役を終えてみたらお2人の指導力は素晴らしかったのだと思いますよね。吉井さんも吉田さんも、選手ひとりひとりの性格もよく認識してくれましたし、選手とよく話をしてくれましたね。

【結城】

当時から合宿期間は禁酒・禁煙が当たり前でしたが、一日の練習で疲れ切って食事のどを通らないようなときは、アメとムチのアメ…つまり1本のビールをくれたのが吉田さんでした。それで練習を頑張る気にもなったのです。餌付けされましたね（笑）。

【吉田】

エジプトやチェコスロバキアなどと練習試合をして、モンテリオールの本番に入りました。9位以内に入ることを目標としていましたが、当時は12チームしか出場していませんでしたし、正直に言うと、アジアの我々が勝てるのはせいぜいアフリカのチームだろうという見立てがありました。しかし五輪に連続出場するという当初の目的を果たすために、選手は大変努力してくれました。一番奔放に、屈託なくやったチームでした。これだけのチームなら負けてもしょうがないと。悔いのない大会だったと思います。

モンテリオールのメンバーは、技術的にも人間的にも史上最高のメンバーだと思っています。個性も素晴らしかったし、各人が名人芸ともいえるべき持ち味がありました。桑田は独特のシュート、千種はシャープさ、結城はタフさ。吉井さんとピートさんの技術を私のところまで20年間踏襲してきたのですから、12名のサムライが誕生して当然なのです。モンテリオール以降、この技術的継承が途絶えてしまったのは非常に残念なことだと思っています。

【深尾】

ここからは現在の日本のバスケットボールに目を向けてお話いただければと思います。

【吉田】

現在の日本男子バスケットは、ビッグマンの外国人依存度が非常に高いのが気にかかります。Bリーグは1部から3部までで600人の選手が在籍していますが、うち約100人がアメリカ人で、日本人ビッグマンは数えるほどしかいません。日本代表の戦い方にも疑問がありますが、ニック・ファジーカス（川崎ブレイブサンダース）や渡邊雄太（メンフィス・グリズリーズ）、八村塁（ゴンザガ大）、彼らが東京オリンピックに帰ってくるという風聞もあり、明るい将来が見られ、楽しみの一つです。今は、センターがスクリーナーとしてガードが攻める「ピックアンドロール」のバスケットが主流で、今のガードはスクリーンがないと攻められないということです。我々のときは、ボールをもらうという基本動作がスクリーンから始まるなんてことはありませんでした。まずは一対一でしっかりディフェンスを破るパワー、テクニック、勇気をしっかりと持っていたのです。ファジーカスと八村はオーストラリア戦に向けてのミーティングで「俺にボールを回せ」と言ったそうですが、彼らが一対一で破るという意識を持って攻めたから、この試合は勝てたのだと思います。

【斎藤】

今のバスケットは、確かにスクリーンを使いたがる傾向にありますね。その気持ちはよくわかるのですが、ガードが、先ず初めに攻めない。攻め気があってゲームコントロールできる本当の意味での「ガード」がいない状況なのだと思います。そういうガードがいて、他の選手はボールがないところでいかに動いてノーマークを作れるか。日本が勝てるバスケットはそれしかないでしょう。

私は、今ミニバスを教えています。中学生になるまではポジションを決めなくてもいいという考え方で指導しています。「君は小さいからガードね」などとは言いません。なぜかというと、育ち盛りの子どものポジションを固定してしまったら、そのポテンシャルが絶たれてしまうからです。好きなことをやらせてみた上で、最後は子供たち自身が答えを出せばいいのです。

【吉田】

合宿のやり方にも疑問がありますね。今はBリーグのシーズン中に3日間ずつの合宿を行っています。10回やったところで30日。150日間を過ごした選手とは積み重ねた量が違います。サッカー日本代表は今回のワールドカップに向けて、3～4日の合宿でベスト8の成績を出していますが、バスケットはこういう形で成り立つ競技ではありません。長い歳月を共に過ごすから阿吽の呼吸が生まれるし、私が選手を交替しようと思ったらそのときにはすでに、交代メンバーがユニフォームで隣にやってくるような意思疎通がはかれるようになるのです。そこまで仕立てあげないと身長での劣勢を覆したり、センターの選手をガードとして育てたりすることは難しいと思います。

【結城】

バスケットボール界は、川淵三郎さんのおかげで大きく改革・前進しました。はっきり言って、今までのバスケット人にはできなかったことでしょう。しかし、私が危惧していることは、そこにバスケット人がほとんど携わっていないということです。特に普及と強化は顕著です。

バスケットボールは、外国人コーチを連れてくればよいというものではないと思うのです。日本代表の目的はアジアで勝ち、オリンピックおよびワールドカップに出場すること。そのために日本の指導者たちが力を結集し、勝つための対策や戦略等々を考え実行してきたことで、我々の世代ではアジアの上位をキープしてきました。今も優秀な指導者・人材はたくさんいます。その人材を活用できないものかと思うところです。

また、2020年の東京オリンピックに今のところ開催国枠として出場できる見込みは未定ですが、現在の日本代表はアジアで7～8位。せめてベスト4以上は確保すべきでしょう。あまりにもランクが低いまま出場することが果たして得策なのか、疑問に思います。

さらに、出場する選手は全員プロです。当然けがをすれば仕事を失います。安心してプレーに集中できる環境作りも必要です。NBAのビッグセンター、シャキール・オニールがアメリカ代表に選ばれたとき、代表側が提示した50億円の保険に首を縦に振らず、100億円で渋々OKしたそうです。彼ほどまでとは言わなくても、こういった保証も整備してほしいものです。

【結城】

私が一番心配しているのは、JBAやBリーグの上層部を異業種の人がコントロールしていることです。他の競技団体を見回しても、異業種の方々が団体のトップに立っているところは1つもないですから。本来なら我々がこのような役職につかなければならない立場なのですが、協会にもBリーグにも「バスケット経験者を入れない」という見えないバリアがあるような気がします。

強化の方法も不安です。開催国枠というものに甘えず、アジアで勝って、堂々とオリンピックの出場権を勝ち取ってほしいです。昨年の「FIBA ASIAカップ」で日本代表はベスト8にも入れませんでした。そのような状態でオリンピックに出場することは果たしてバスケット関係者として喜べることなのでしょうか。Bリーグが開幕したことでバスケットの注目度が高まっている中、オリンピックで大敗を喫したときにどんなダメージが出るのかと思わずにはられません。

もちろん、私たちのころとは環境が変わっています。私たちはサラリーマンが本業でしたから「ケガして選手生命が絶たれてもいい」と打ち込むことができましたが、今の選手たちはバスケットでお金を稼いでいますから、そういうわけにはいかないでしょう。そういったこともあって、あまり無責任なことを言えないところもあります。

【千種】

我々のときは「自己犠牲」がすべてでした。「自分以外の誰かのために」という思いで日の丸を背負っていた。そこにはプロもアマも関係ないと思いますよ。

【結城】

ピートさんを筆頭に、ステュー・インマン、ジャック・ビーナ、ジョン・ビー・ホールなどのアメリカのコーチが言う「自己犠牲」とは、一言でいえばドラマの主演と脇役の違いです。脇役の仕事は、主演がいい仕事ができるようにサポートすることで、主演の邪魔をしてはなりません。要は、「各人が状況に応じて、チームにおける役割をしっかりとやれ」ということが、彼らの言う「自己犠牲」だと理解しています。

バスケットは狭いコートの中で何万通りもの状況が起きるスポーツです。「Aがこうしたらこうなる」というシチュエーションは練習で培っていくわけですが、それに協力するのが自己犠牲だと思います。サッカーにはそれがありませんよね。なぜならば、3～4回の練習でW杯に臨めちゃうのですから。

【吉田】

日本代表のメンバーは「日本で一番うまい12人」だったら、そのチームはうまくいきません。なぜなら家族になれないからです。斎藤や浜口秀樹はそのような選考基準だったら選ばれなかった選手でしょうが、チームが家族になるためには必要不可欠な存在でした。斎藤は怒られ上手。殺気立った先輩たちに怒られたり当たられたりしても、不思議とかわいがられる。浜口は体重が重すぎてマット運動で首を捻挫してしまうようなやつでしたが、物事の吸収する性格が実によかったです。千種や結城が言うように、それぞれの役割を果たし、家族と呼ばれるほどの絆を築ける日本代表を望みます。

【深尾】

我々振興会は青年のようにバスケットをこよなく愛するメンバーで構成されています。私共が出来ることは喜んで協力していきたいと思います。今日ご参加の皆様のご健康を祈念し座談会を終わります。ありがとうございました。



座談会出席の振興会会員

付記

男子日本代表チーム成績 予選リーグ、グループAで全敗ののち、9～12位決定戦でプエルトリコに敗れ、11～12位決定戦で相手エジプトが棄権。12チーム中11位。

(日本の戦績詳細)

予選リーグ：グループA		日本成績	5敗
7月18日	日本	76－104	カナダ
19日	日本	90－108	メキシコ
21日	日本	56－97	キューバ
23日	日本	63－129	ソビエト連邦
24日	日本	79－117	オーストラリア

9～12位決定戦：

7月25日	日本	91－111	プエルトリコ
-------	----	--------	--------

11～12位決定戦

7月27日	日本	2－0	エジプト（棄権）
-------	----	-----	----------

(最終成績順位)

1位	アメリカ	(B 1位)	7位	キューバ	(A 3位)
2位	ユーゴスラビア	(B 2位)	8位	オーストラリア	(A 4位)
3位	ソビエト連邦	(A 1位)	9位	プエルトリコ	(B 5位)
4位	カナダ	(A 2位)	10位	メキシコ	(A 5位)
5位	イタリア	(B 3位)	11位	日本	(A 6位)
6位	チェコスロバキア	(B 4位)	12位	エジプト	(B 6位)

(エジプトは、初戦64－103でチェコスロバキアに敗れ、以降の対戦を棄権。)

実業団チームの社会貢献活動

横河電機バスケットボール部

[総務部・普及部]

はじめに

Bリーグがスタートして3年目、各チームの地道な努力が徐々に効果を現し、バスケットファンが増えていることは、関係者としても喜ばしいことである。

ところで、アマチュアのトップチームはというと、Wリーグのチームを筆頭に、ファンを増やすための諸々の施策を打ち出しているチームも多い。

例えば、チームが所属する企業の社会貢献の一環として、地元の子供たち向けのバスケットボール・クリニックを多くのチームが実施している。

今回本誌で紹介するのは、横河電機バスケットボールチームのユニークな社会貢献活動、題して「さわやかバスケットボール広場」、最寄りの地域の特別養護老人ホームでお年寄り・選手・ミニの子供たちが行う「ふれあい活動」である。

以下、この活動をサポートしているさわやか福祉財団の情報誌から引用する形で紹介させて頂く。

「さわやかバスケットボール広場」の一コマ

身長195cmの選手が顔の前にリングを掲げ、小学校4年生の女子がフリースロー。

ボールが選手の顔を直撃か、これはやばいと思った瞬間、選手が上手く顔を背けたため事なきをえたが、そのおかげでボールは見事リングを通過、得点1、会場が大爆笑に包まれる。

毎年秋、特養ホーム武蔵野館（以下、武蔵野館）で開催されるバスケットボールさわやか広場の一コマである。

主役は、武蔵野館を利用しているお年寄り、地元の横河電機株式会社バスケットボール部（以下、横河バスケ部）の選手、それに地元のミニ・バスケットボールチーム給田シューティングスターズ（以下、給田スターズ）の子供たちと保護者。

お年寄りも、選手も、子供たちも、最初は表情が硬くぎこちない様子。



ドリブルする選手一人を子供たち三人が囲み、ボールを奪うゲームをやると子供たちは本気モードで真剣そのもの。そんな頑張りを目の当たりにしたお年寄りから大きな声援がわく。上手くボールを奪うと大喝采。この辺りから、お年寄りの頬に赤みがさし、顔が綻びる。次に行ったスゴロクゲームでは子供たちがお年寄りのところに行き、握手をしたり、後ろに立って「お肩をトントン」。その姿を保護者が写真に撮ってお年寄りにプレゼント。

そして最後には、お年寄り一人ひとりにボールを持って頂き、シュートチャレンジ。決まると選手や子供たちから大喝采。それを受けてお年寄りも大喜び。

こんな微笑ましいひととき、時間にして60分程度であるが、横河バスケ部では、今年が10回目。

横河バスケ部は、創設が1940年、全国実業団大会三連覇の実績もある（アマチュア）トップチーム。給田スターズは、世田谷区で活躍しているミニチーム。今では、横河バスケ部の試合に応援に行く等、交流が続いている。



むすびに

実は、本取り組みはサッカーJリーグが上記財団と協力して新人Jリーガーの社会貢献活動の一環として1997年に開始したもので、横河バスケ部の取り組みはそのバスケ版。Jリーグではすでに100回以上実施されている。日頃、接することが少ない高齢者施設で生活されているお年寄りとのちょっとした交流に最初は戸惑いがちのJリーガーも終わる頃にはお年寄りから激励の言葉を貰い、日頃味わうことのない感動を味わっている。

最後に、横河バスケ部キャプテンの西村直久氏が同誌に寄稿したメッセージも添えさせて頂く。

「私は入社5年目で、今年が3回目の参加となりますが、社会人1年目で参加した時のことです。当時は右も左も分からない状態で、何をどの様に対応して良いのか分からず、持ち前の元気すら出すことが出来ない状態で「さわやか広場」に参加しました。給田スターズのパワフルで元気な姿や、その姿を見て楽しそうにされている武蔵野館のお年寄りの笑顔や、笑い声に励まされて、一緒になって楽しく過ごしたことを今でも思い出します。給田スターズの子供たちや、武蔵野館のお年寄りと過ごす時間は60分という長いようで短い一時でしたが、帰り際に「もう帰っちゃうの？寂しいね～」と声をかけていただくなど、寂しさが残りつつも、なかなか体験できない、心癒される貴重なひと時でした。

現在、横河バスケ部は、関東リーグ戦の真っ只中です。一戦一戦を大事に一生懸命戦い、良いご報告と共に、来年も皆さんに元気や、笑顔を届けられるように活動していきたいと思っています。」

（文責 蒲田 尚史）

「12 月 21 日はバスケットボールの日！」

バスケットボールは今年で 128 才

[普及部]

「BASKETBALL CLASSIC 2018」のイベントが 2019 年 1 月 13 日（日）狛江市民総合体育館で開催されました。2011 年に代々木第二体育館でスタートした「バスケットの日!」は、今年で第 8 回目となります。今回は、初めての「日曜日の開催」で、盛りだくさんの企画に多くの人が集ってバスケットボールの誕生日を祝いました。

当日は、恒例の「リレーゲーム」を始めとして、能代バスケットボールミュージアムのご協力による「バスケットボールの歴史の展示」、渡辺淳先生による「シューズの履き方講座」、多胡先生のご協力による「ネットボールの試合の実演」、振興会の保存している「東京オリンピック資料の展示」、小谷究先生（流通経済大学）による「日本バスケットボール殿堂の選出の模擬講座」、「Sitting Shooters Basketball」、「車椅子バスケットの体験コーナー」、上田頼飛氏による「デフバスケットボール男子日本代表監督の講演」などの企画が行われ 200 名以上の参加者に大いに楽しんでいただきました。



リレーゲーム



能代バスケットボールミュージアムの展示

狛江市民総合体育館の他に「バスケットボールの日!」のイベントは、秋田県能代市で「シニア大会の開催」、12 月 15、16 日に東京都練馬区、12 月 15 日に「BONESCUP.Jr 開催」を埼玉県越谷市、12 月 16 日に埼玉県蓮田市、更に宮城県で気仙沼市と本吉郡南三陸町、など、各地で開催されました。

バスケットボール競技は、1891 年 12 月 21 日に世界で最初のゲームが行われました。従って、バスケットボールは 2019 年で 128 才になります。2011 年の初めてのイベント開催以来、多くの方々のご協力により全国各地で「バスケットボールの日!」の企画が実行されました。

バスケットボールを通じて、全国のバスケットボールを愛する人たちが繋がって、さらにこのイベントが広がるように期待したいものです。

人物抄

佐室 有志 さん



佐室有志さんは、昭和11年(1936)東京ご出身で83歳、現在は東京都世田谷区にお住まいで大変お元気である。バスケットボール界で様々な役職を長年にわたって引き受けられ、その名前を知らない人はいないほどバスケット界に貢献されてきた。

下町浅草のお生まれで、いわばチャキチャキの江戸っ子に反して、小さい頃から勉強家、努力家で過ごされる。

武蔵中学、高校へと進学されたが、中学2年生のとき当時としては長身だったこともあってバスケットボール部へ入部され、バスケットボール界で有名な畑先生の教えを受けられる。

高校界で強豪だった武蔵高校は、インターハイ常連組だったが、佐室さんが2年生のとき出場した新潟大会では勝ち上がれなかった。進学校だった武蔵では本格的な部活は2年生までで、3年生は進学のため部活を辞めて勉学にいそしむ習わしだったそうだ。2年生時インターハイで準決勝にも進めなかった佐室さんたちは、敢えて3年生まで部活を強行し翌昭和29年(1954)の秋田インターハイで見事優勝を飾っている。

佐室さんは高校卒業後の進学先として東京大学を目指していたらしいが、浜中貞一さんという慶応義塾大学の先輩から、東大の入学試験を受験する・しないに拘わらず慶応義塾大学を受験するよう勧められ慶大を受験。結局東大理科Ⅰは不合格で、当時バスケットボールが強かった慶大に進んだというエピソードもある。

当然のことながら慶大でバスケットボール部に入り、リーグ戦などに出場、3年生時に関東大学リーグで2位、インカレで優勝している。

慶大卒業後、昭和34年(1959)に㈱日立製作所へ入社されるが、これも先に卒業して日立にいた浜中先輩に誘われてのこと、日本リーグがなかった当時、日立は関東実業団バスケットボール連盟でトップグループに位置していた。この頃の関東実業団リーグ1部チームは、日本鋼管、日本鉱業、東京海上、三井生命、日立本社、鐵興社、第一生命などであったが、日立本社の1部リーグでの成績は丁度中間位であった。

比較的早めに現役を引退された佐室さんは、会社での業務に熱意を注がれる。「入社以降会社を終えるまで営業一筋でした」と語る佐室さん、持ち前の交渉力で大型商談を次々と成功させる。

総従業員が33万人を越える日立グループにおいて、営業部長に昇進された後、昭和62年(1987)中部支店長を任命され、中部東海地区の営業に取り組まれる。それまで東京で営業活動が続けられてきた佐室さんは、日本の中部地区の産業の発展に驚いたと言われる。当時の中部地区には大手でかつ優秀な企業が存在していて、これぞ日本の産業の中核をなすものと感じられたという。

日立の産業分野は、重電からコンピューターハード、ソフト、金融からビルメンテナンスに至るまであらゆる業種に携わっていたこともあり、いずれの分野でも大手客先への売り込みは重要案件であった。

中部支社へ転勤した佐室さんが担当した相手は、トヨタ自動車、JR東海、東海銀行、

中部電力などのシステム販売で、日本の中部にありながら各分野の大手客先で、成約すればその金額は一度に何百億円の単位であったらしい。また、名古屋で気づいたことは「地元の発展に寄与する姿勢」をもって仕事を進めることが非常に大切なことであり、東京下町（浅草）で生まれの佐室さんにとっては、大変貴重な経験になったと話される。

名古屋で優秀な成績を収めた佐室さんは、やがて東京本社へ戻り日立の情報システム部門を統括されるとともに営業本部長から平成5年(1993)に日立本社の役員となり、平成7年(1995)に常務取締役となって更にその手腕を発揮される。

一方バスケットボールの方でも東京へ戻られて、平成8年(1996)から関東実業団連盟の会長を務められたが、この役職は長く、8年間にわたって同連盟発展のため尽力される。

この間会社におかれては、平成11年(1999)に取締役副社長に就任され、子会社を含めた日立グループの業績アップに力を注がれた。

そして、関東実業団連盟の会長職が終了した後、平成17年(2005)に日本実業団連盟の会長に就任され、5年間にわたり全国実業団連盟の大会にも出席されるなど、連盟の盛り上げにも尽力されてその発展に寄与された。この間、平成19年(2007)には日本協会の副会長に就任され、日本のバスケットボールの諸問題解決に取り組まれる。当時、日本の男子トップリーグがNBLとbjリーグに分かれていたが、2リーグ統一をというFIBAからの要請に応えるべく大変ご苦労をされた。

この頃、日本協会の会長は麻生太郎さんが引き受けられていたが、麻生さんが首相に就任されて会長業務を休職されたため、会長代行という重要任務に就かれる。会長代行と言っても会長は麻生さんだったので、毎月1～2回は日本協会の動向などを伝えて指示を仰ぐため、首相官邸や麻生さんのご自宅へ出かけられたという。

平成22年(2010)に日本実連会長と日本協会副会長職を辞されたが、今度はFIBAアジア連盟の第二副会長を指名され、こちらの方は改めて2年間務められた。

日本実連会長、日本協会副会長の職を終わられた平成23年(2011)、振興会会長職を懇願されて引き受けられ、当時財政危機に陥っていた振興会復活に大変なご尽力を頂いている。この間に定年によって日立の副社長は退任されたが、その後も名誉顧問に就かれた佐室さんの影響力は大きく、法人会員の増強やプラザへの広告獲得にも一役買われている。

佐室さんが長い間務められたこれらの役職による、バスケットボール界への貢献度は多大なものがあり、平成26年度(2014)全日本選手権大会の席上において、日本協会功労表彰を受賞された。



現在B1リーグに所属する「SR渋谷」の前身は「日立サンロッカーズ」で、日本のトップリーグを維持していたが、佐室さんはベンチに入るなど直接チームに関わったことはなかったが、試合には頻繁に観戦に出かけられ、応援を惜しまなかった。その辺のところを聞いてみると、「ヘッドコーチなどの仕事はそれらに詳しい人にやらせた方が良かったので」と笑う。しかしながら、選手のスカウティングや引退後の面倒見などには力を入れ、佐室さんなくして日立サンロッカーズの活動はなかったともいえる。

日立グループの副社長という大変な仕事の傍ら、バスケットボール界で要職を依頼されると快く引き受けられ、永年バスケットボール界に尽力された姿は、日本協会功労表彰以上に価値あるものと頭が下がる。これからもお元気で、是非ともバスケットボール界への提言をして頂きたいものである。

会員だより



リングに向かって“飛べ”10年後の子供達

その3：埼玉県立飯能高校男子バスケットボール部

鈴木 承二

12月18日、埼玉県飯能市の県立飯能高等学校男子バスケットボール部を訪問した。
飯能高等学校は、県内でも長い歴史を持つ伝統校で地元では“飯高”と呼ばれ親しまれている学校で、駅前から学校までの道が“飯高通り”と称されているくらいの地元の名門校である。

訪問のきっかけはB3リーグの東京エクセレンス公式戦でのハーフタイムに全国でも名高い“飯高”のチアガールがパフォーマンスを披露してくれた際の、大のバスケット好きな顧問の上田先生からの繋がりであった。

男子バスケットボール顧問の、梅田先生から“飯高”の紹介をして頂いた。

＊飯能高等学校：創設 1922年

＊男子バスケットボール部：実績 県大会ベスト16進出



＊梅田顧問のバスケットボール歴：

埼玉県東和大付属昌平高校（現：昌平高校）卒業

在学中の実績

埼玉県大会優勝、関東大会優勝、

全国高校総体3位、国体候補選手、(当時のポジション：PG)

宇都宮大学卒業

現在に至る

会員だより

埼玉県立飯能高校男子バスケットボール部を紹介

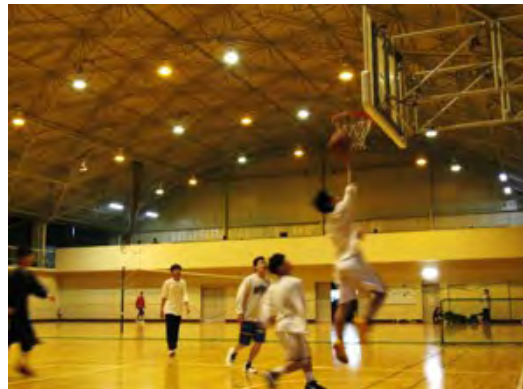
飯能高校男子バスケットボール部 顧問 梅田 直希



飯能高校の歴史は古く、創立後100年近くになる伝統校です。女子バスケット部においては埼玉県予選を勝ち抜き、全国高校総体に出場した実績を持ちます。しかしながら、男子バスケット部においては県大会には出場するにとどまり、県大会への常連になること、上位大会が現在の目標です。

強豪私学と異なり、選手の能力や体格、バスケットボールに対するモチベーション、家庭環境は様々です。高校からバスケットを始めた選手も少なくありません。そんな環境で、指導の指針としていることが『自ら考えて行動すること』『主体的にバスケットに取り組むこと』の2点です。高校卒業後は就職や進学、さらには留学など、その進路は多岐に渡ります。そのため、バスケットボールを通して人生に通じる教訓を選手には教えたいと考えています。高校生活の3年間だけでなく、卒業後の人生を謳歌できるよう選手の育成に励んでいます。

技術的な視点では、『個のスキルの上達』を主眼に置いています。ドリブルスキルやシュートスキルなどを中心にチーム作りを進めています。これも、卒業後に選手自身がバスケットボールをプレーする際に、必要になると考え課題や改善点を日々の練習に落とし込んでいきます。一朝一夕での成長は望めませんが、3年間の成長をテーマに日頃の選手の変化に目を向けて指導しています。



練習風景



チームメンバー



アジアのバスケット好きな仲間たち

その3：第8回アジアシニア日本人バスケットボール大会

鈴木 承二

バスケットボールプラザ80号に続き、アジアでバスケットボールに熱中し活躍するシニア（40歳以上）の大会を主催するバンコクのシニアチーム主将“五十嵐雅幸”氏から報告を頂いたので紹介する

第8回アジアシニア日本人バスケットボール大会を振り返って

バンコックシニア&スーパーシニアチーム主将 五十嵐 雅幸



例年、バンコックで開催されるアジア各地で活躍するシニア（40歳以上）のバスケットボール大会が9月8日開催された。3年前から、同時にスーパーシニア（48歳以上・年齢制限なしの女性参加可）の部に分かれ、シニアの11チームとスーパーシニアの7チームの大会でした。年々参加者は増加し（高齢者が増える日本国内と同じ）、今年第8回は160名弱、弁当手配が200個という巨大な大会となりました。

今回の大会は“B-Pro Basketball Bangna”（アジアプロバスケット競技場）を借切り、大型バス4台と、直接会場入りするチーム等で早朝より3コートにて計18試合を夕方5時までに終了するタイトな大会でした。

1クォーター7分流し（タイムアウト除く）等の新独自ルールを取り入れ（準決勝・決勝を除く）工夫を凝らすも、後半になればなるほどパワーが落ち、シュートも入らず、それでも楽しく笑顔で、真剣なプレーの合間に歓声が舞い上がる素晴らしい大会になりました。

夜には市内中心地にある Pulln Bangkok Grande ホテルのバンケットルームにて盛大に表彰式と余興が行われ、4年前から恒例？となったバンコック女子チームによる余興が“爆笑”で大いに盛り上がりました。

Asia-Cup（同様な若手の大会は参加国持ち回りにて開催されますが、シニア大会は初回からバンコックが開催国です）で、各国の選手は大会の日程を調整し、バンコックに集いバスケットボール+αを楽しみに来年の大会での再会を約束し閉会となりました。



熱戦の一場面

会員だより

** シニア部の成績

1. ハノイ、
2. バンコック、
3. 深セン、
4. ホーチミン、
5. シンガポールA、
6. 蘇州、
7. マニラ、
8. 上海、
9. 香港、
10. シンガポールB、
11. チャイナMix

** スーパーシニア部の成績

1. シンガポール女子、
2. バンコック、
3. チャイナMix、
4. 上海&ホーチミン (混)、
5. 香港&深セン (混)、
6. ハノイ、
7. バンコック女子

その他の表彰は、シニア、スーパーシニア共々、得点王、3ポイント王、ファール王、及びベスト5。

MVPはハノイの横山大介君が獲得しました。

同郷、学校の同窓、社会人の同窓等互いにテーブルを囲み、近況と来年の再会を誓い合い夜の二次会に流れました。

今年の雪辱から反省と、来年までの練習強化を互いに語り明かした様です。



Bリーグ情報

[編集部]

オールスター戦

Bリーグ・オールスター戦が、2019年1月19日、富山市総合体育館で行われた。

ファン投票(F)、Bリーグ推薦(B)、SNS投票(S)で選ばれた24名の選手が「B.BLACK」と「B.WHITE」の2チームに分かれて対戦し、B.WHITEが142-130でB.BLACKに勝利した。

最優秀選手(MVP)には24点を挙げたB.WHITEの大塚選手(富山)が選ばれた。

出場選手

選出符号：F・ファン投票、B・Bリーグ推薦、S・SNS投票

B.BLACK

No	氏名	cm	kg	position	所属	選出
0	田 臥 勇 太	173	76	PG	栃木ブレックス	F
1	川 村 卓 也	193	92	SG	横浜ビー・コルセアーズ	B
3	並 里 成	172	72	PG	琉球ゴールデンキングス	B
4	ジェフ・ギブス	188	110	PF/C	栃木ブレックス	F
6	馬 場 雄 大	198	90	SF	アルバルク東京	F
9	ヘンドラメ礼生	183	83	PG	サンロッカーズ渋谷	B
13	渡 邊 裕 規	180	78	PG	栃木ブレックス	F
14	岸 本 隆 一	173	76	PG/SG	琉球ゴールデンキングス	S
22	ライアン・ロシター	206	107	PF/C	栃木ブレックス	F
24	田 中 大 貴	192	93	SG	アルバルク東京	B
31	城 宝 匡 史	183	83	SG	ライジングゼファー福岡	B
33	アイラ・ブラウン	193	105	SF/PF	琉球ゴールデンキングス	B

B.WHITE

No	氏名	cm	kg	position	所属	選出
2	富 樫 勇 樹	167	65	PG	千葉ジェッツ	F
6	桜 井 良 太	194	85	SF	レバンガ北海道	B
7	篠 山 竜 青	178	78	PG	川崎ブレイブサンダース	F
8	張 本 天 傑	197	100	SF/PF	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	B
9	水 戸 健 史	185	75	SG	富山グラウジーズ	S
11	宇 都 直 輝	191	80	PG	富山グラウジーズ	B
14	金 丸 晃 輔	192	88	SG/SF	シーホース三河	F
15	白 濱 僚 祐	189	85	SF	秋田ノーザンハピネッツ	B
21	ギャビン・エドワーズ	206	110	PF	千葉ジェッツ	B
22	ニック・ファジーカス	210	111	C	川崎ブレイブサンダース	F
24	大 塚 裕 土	188	82	SG/SF	富山グラウジーズ	F
54	ダバンテ・ガードナー	203	132	C	新潟アルビレックス BB	B



品川プリンスホテル・ステラボールでの大型画面による観戦風景

2019 年 1 月 22 日現在のリーグ戦の成績

東地区

順位	チーム名	勝利	敗戦	勝率
1	千葉ジェッツ	27	5	0.844
2	栃木ブレックス	25	7	0.781
3	アルバルク東京	21	11	0.656
4	サンロッカーズ渋谷	14	18	0.438
5	秋田ノーザンハピネッツ	11	21	0.344
6	レバンガ北海道	8	24	0.250

中地区

順位	チーム名	勝利	敗戦	勝率
1	新潟アルビレックス BB	22	10	0.688
2	川崎ブレイブサンダース	20	12	0.625
3	富山グラウジーズ	18	14	0.563
4	シーホース三河	16	16	0.500
5	三遠ネオフェニックス	13	19	0.406
6	横浜ビー・コルセアーズ	8	24	0.250

西地区

順位	チーム名	勝利	敗戦	勝率
1	琉球ゴールデンキングス	23	9	0.719
2	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	18	14	0.563
3	京都ハンナリーズ	16	16	0.500
4	大阪エヴェッサ	14	18	0.438
5	ライジングゼファー福岡	8	24	0.250
6	滋賀レイクスターズ	6	26	0.188

Wリーグ情報

[編集部]

佳境に入ったリーグ戦

創立20周年を迎えたWリーグ2018～2019シーズンは2018年10月19日に開幕し、2019年1月20日現在、各チーム16戦を戦い1位に15勝1敗のJX-ENEOSサンフラワーズが立っている。2位に13勝3敗でトヨタ自動車アンテロープス、3位に12勝4敗で三菱電機コアラーズ、4位に11勝5敗で富士通レッドウェーブ、5位に11勝5敗でデンソーアイリスが続いており、以上のチームはプレーオフ進出が決定している。残り6試合で6位以下7チームがプレーオフ進出を目指し厳しい戦いが繰り広げられる。6位のシャンソンはJX-ENEOS、デンソー、新潟と各2戦、7位のトヨタ紡織は日立ハイテク、東京羽田、山梨と各2戦、8位の日立ハイテクは富士通、トヨタ紡織、アイシン・エイ・ダブリュと各2戦、9位のアイシン・エイ・ダブリュは三菱電機、日立ハイテク、東京羽田と各2戦が有り、残り3枠を目指す。

2019年1月20日現在でのWリーグ成績

無敗を続けていたJX-ENEOSが2019年1月19日の富士通戦で64-86の大差で今シーズン初めて敗戦した。旭川市で開催されたこの試合では、JX-ENEOSが、3名の北海道出身者(町田瑠唯、栗林未和、高田汐織)を擁する富士通に13本の3ポイントシュートを決められて、初黒星を献上した。しかし、翌1月20日には84-57の大差で勝利し、リベンジを果たした。JX-ENEOSの残り6試合(トヨタ自動車、デンソー、シャンソン化粧品との各2試合)で、どこのチームが黒星を付けるか興味深い。

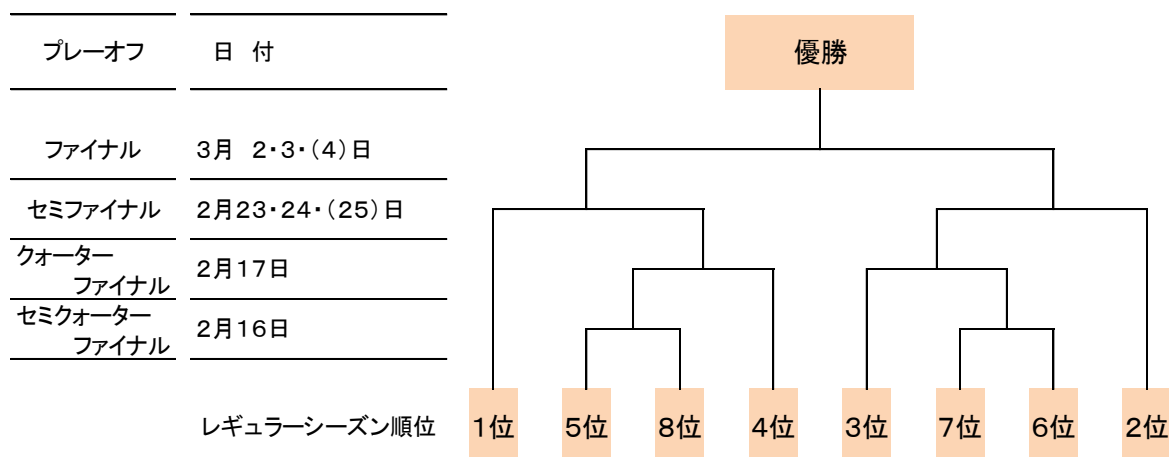
順位	チーム名	勝・敗	勝率	平均得点	平均失点
1	JX-NENOS	15-1	0.938	86.25	59.44
2	トヨタ自動車	13-3	0.812	77.56	60.19
3	三菱電機	12-4	0.750	76.56	67.00
4	富士通	11-5	0.688	71.00	64.12
5	デンソー	11-5	0.688	75.31	68.06
6	シャンソン化粧品	9-7	0.562	77.44	70.69
7	トヨタ紡織	7-9	0.438	63.50	64.31
8	日立ハイテク	6-10	0.375	64.88	70.00
9	アイシン・エイ・ダブリュ	5-11	0.312	61.81	70.06
10	東京羽田	4-12	0.250	68.19	81.81
11	山梨	2-14	0.125	66.75	86.06
12	新潟	1-15	0.062	53.12	80.62

Wリーグプレーオフ

Wリーグ2018～2019シーズンは2月10日に終わり、2月16日からプレーオフに入る。

セミクォーターファイナル・クォーターファイナルは、秋田県立体育館（秋田県）で1戦先勝方式により行われる。

セミファイナルはスカイホール豊田(愛知県)、ファイナルは大田区総合体育館(東京都)で、それぞれ2戦先勝方式により行われる。

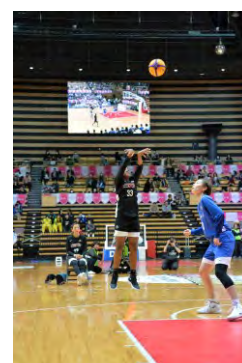


Wリーグオールスター2018-2019 in TOKYO

20周年を迎えた今年、「ALL TOGETHER !」をテーマに各種イベントが大田区総合体育館で年末の12月29日に開催された。

○「ステーキハウス ブロンコビリーカップ」3x3 1Day トーナメント

初めて開催された3x3。FIBA 3x3 U23 ワールドカップで銀メダルを獲得したWリーグ選手『小山真実(東京羽田)、馬瓜ステファニー(トヨタ自動車)、山本麻衣(トヨタ自動車)』とWリーグOGが参加し4チームにより1試合7分のトーナメント戦で優勝を目指した。決勝は武蔵中原イノベーションズに17-4で勝利した穴守稲荷エアスポーツと安城トランスミッションズに17-11で勝利した新栄町モーターズが戦った。新栄町は馬瓜が開始早々の3連続シュートを決めて流れを作る。穴守稲荷は小山真実が連続得点するも流れは変わらず新栄町が12-9で優勝を決めた。



2ポイントシュートを決める馬瓜

○ 大神 雄子 プロデュース「Shin' s Dreams Game」

昨シーズン引退した大神雄子がオリンピックメダリストと共にリハビリを励んだアスリートチーム「SHIN' S DREAMS」と地元大田区のミニバスチームで編成された「FUTURE STARS」と5分ハーフのゲームを行った。



プレイする三宅宏実

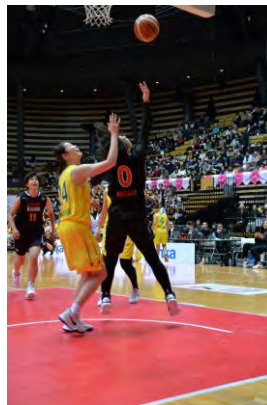
「FUTURE STARS」はミニバスのゴールの高さと違うため当初シュートを決めきれなかったが慣れるにしたがってシュートを決め前半8点を取る。一方「SHIN' S DREAMS」は異種目競技の選手を含むため前半0点に終わる。後半「SHIN' S DREAMS」は競技に慣れシュートが決まるようになり7点を取る。「FUTURE STARS」は前半と同じ8点を取り16-7で勝利した。「SHIN' S DREAMS」にはアテネオリンピック選手村で大神と同室の重量挙げ選手三宅宏実が参加している。

○ Wリーグオールスター クラシック

Wリーグのレジェンドプレイヤーが「TEAM YELLOW」と「TEAM BLACK」に別れ7分ハーフのゲームを行った。「TEAM YELLOW」は共石石油～JOMO～JX～JX-ENEOSのOGチーム。「TEAM BLACK」はシャンソン化粧品、富士通、デンソー、トヨタ自動車、JALのOGチーム。往年の得意プレイが所々に展開されてファンを楽しませたり、移籍した選手が相手チームでプレイしたり、現役選手がコートサイドから参戦したりして楽しいゲームが繰り広げられ、「TEAM BLACK」が28－21で勝利した。



フックシュートの小磯



ドライブから
バックシュートする永田

○ スキリズチャレンジコンテスト

本川紗奈生(シャンソン化粧品)が4連覇を果たすか注目のコンテスト。東西から3名の選手が参戦し、ドリブル、パス、シュートのスキルを競うコンテスト。3番目に宮崎早織(JX-ENEOS)が初出場し、3ポイントシュートを1投で決め、残りのドリブル&シュートを決めて24.4秒でフィニッシュした。最後に出場した本川紗奈生がチャレンジしたが25.9秒で終わり、宮崎が初出場・初優勝を勝ち取った。



3ポイントシュートを
1投で決めた宮崎

○ 3ポイントコンテスト

3連覇中の山本千夏(富士通)が怪我で欠場する3ポイントコンテスト、誰が新チャンピオンなるか注目されるコンテスト。東西から3名の選手が参戦し60秒間に5か所から各5投ずつ試投(25球)し、その成功数を点数化し合計点を競うコンテスト。公式球は1点、カラーボールは2点とカウントされる。最初に怪我の山本千夏の代役で出場した高田汐織(富士通)が得意の右45度にカラーボール集め効率よくシュートを決めて20点を上げる。続くリーグ屈指のシューターがチャレンジするも20点を越えられず、高田が初出場・初優勝(富士通4連覇)を勝ち取った。



得意の右45度で
3ポイントシュートを決める高田

○ Wリーグオールスター

試合前に TEAM WEST が全員のダンスと馬瓜エブリンの熱唱で会場を盛り上げた。前半、WESTは本気モード?でプレイし、53-46でリードして終わる。ハーフタイムはTEAM JCDAのパフォーマンス、Wリーグ公式応援アーティスト「J☆Dee'Z」のライブ、三屋裕子(JBA会長)による激励が行われた。後半、一時、EASTは5人全員を1番、2番にし、対するWESTは全員を4番、5番にしてリーグ戦では見られないメンバー構成での戦いを見せ、会場を沸かせた。一時、EASTが4点差まで追いつけるが、WESTは最後までリードを保ち97-87で勝利した。

MVPには馬瓜エブリン、MIPには渡嘉敷来夢が選ばれた。



MVPの馬瓜



MIPの渡嘉敷



オールスター集合写真

訃 報

堀 堅次 氏 平成30年12月18日 享年89歳

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。

ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

堀 堅次先輩 さようなら

羽佐田 恭生



戦前の学習院中等科にはバスケットの部活はまだありませんでしたが、堀さんより3～4年先輩の方々が集まって楽しんでいました。戦後の昭和21年(1946)に籠球部が発足し、東京高等師範附属中学(現・筑波大学附属高校)から野球や陸上のようにバスケットも定期戦をやろうと申し込まれましたが、まだ出来たばかりなので、翌年からの持ち越ししました。

堀さんと同級の当会会員正田宏二さんは旧制高等科へ進学されたので、堀さんが主将で第1回の定期戦が始まりました。試合は8－40で大敗。附属には会員で一昨年に亡くなられた日比野明さんがおられました。この定期戦はそれ以後毎年行われ、女子も加わって、男子は昨年で72回になっています。

堀さんは、学習院大学に進み、新制大学のチームが学連に加入を申し込みましたが、リーグの運営が出来ないということで断られ、堀さんに梅戸仁さん(武蔵大)と並木浩さん(青学大)とで関東学生バスケットボール新連盟(新リーグ)を立ち上げました。学習院大学は、その第1回のトーナメントで優勝し、1部に所属することになりました。

堀さんは、大学3年の時に学習院女子高等科のコーチを引き受け、インターハイ東京予選、国体東京予選の決勝で十文字高校に敗れましたが、東京都第2位の成績を収めました。学習院大学、高等科のコーチも務められ、後輩の試合には随分足を運んでおられ、試合後は辛口の感想を述べられていました。

就職した三菱製紙で大阪、八戸に転勤した際は、それぞれで会社にバスケット部を設立されました。

定年後の今度はミニバスです。三鷹でチームの面倒を見られ、連盟の理事長も務められました。

堀さんで忘れられないのは「お酒」です。よくお飲みになりました。昔大阪で、ボーナスが出た時に一緒しました。北新地で3～4軒位飲み屋やバーで、半年ツケで飲んだ勘

定を払いに行くのです。何しろ毎日のように飲み貯めた金額です。いっぱいボーナスを貰っても全部の勘定が払いきれず、次回に持ち越しになって仕舞うのです。まだ、独身時代であつたにしてもよく飲まれたものです。

近年は流石の堀さんも足が衰え、歩行のスピードが遅くなりました。それでも飲むことには積極的でした。

我々後輩は堀さんの面前で、堀さん或いはホリケンと呼んでも嫌な顔はされませんでした。バスケットとお酒をこよなく愛した先輩が昨年12月18日に急逝されるとは夢にも思っていませんでした。何とも残念でなりません。あちらでも二つの楽しみに取り組んで頂くようお願い致します。

合掌

堀堅さんを偲んで

小澤 正博

堀 堅次さんは、振興会発足当初から会員になられ、懇親会などでよくお話をさせていただいたものです。そのときは当然酒席であつたこともあり、以来、愛称が「ほりけん」さんになりました。大変柔らかい頭脳の持ち主で、かつ、争いごとの話になると、いつの間にかその場から離れてしまわれるくらい平和主義者でした。

「ほりけん」さんは、本誌第69号の人物抄に登場しておられますが、あまり目立たないけどいわばバスケットボールの虫ともいえる人生を送ってこられたと言えます。

東京や大阪などの都会と比べ、青森県八戸と言えは若干辺鄙な所ともいえる八戸市で、三菱製紙八戸チームを立ち上げられ、当時実業団連盟が存在しなかった青森県において実業団連盟を創設され初代理事長として活躍されました。

その後、チームは東北実業団連盟代表として、全国実業団競技大会にも出場され、東北地方の実業団発展に大きく貢献されています。

私が「ほりけん」と知り合ったのは、その頃札幌で開催された全国実業団競技大会の懇親会の席上、三菱製紙八戸の監督として堀さんも参加されたときでした。大変物腰の柔らかい方で、「田舎チームなのでよろしくお願いします」との言葉が忘れられません。

退職されてからもバスケットボールには熱心に力を注がれていたようで、三鷹地区のバスケットをまとめておられたと、住んでいた近隣の方から情報を得たこともありました。

本誌69号の人物抄に登場して頂く際、取材を申し入れたところ、「俺なんかそんなところへ出る柄じゃないよ」と固辞され、なんとか説得して振興会の事務所へ来ていただいたものです。取材が終わったときにも、「三鷹でポチポチバスケットボールを教えていますので、機会があつたら三鷹へ来てくださいよ」と親しく言われたものです。後から聞いた話ですが、その頃まで堀さんは地元のミニバスを熱心に教えていたそうです。

毎年秋に開催される講演会と交流会には、必ずと言って良いほど「ほりけん」さんの姿が見られましたのに、ここのところ交流会にも出てこられなかったので案じていましたが、鬼籍へ入られたとのこと、そちらでも好きだった酒を呑みながら、ごゆっくりとお休みください。

合掌

事務局だより

[総務部]

◇ 会費納入のお願い

今年度会費の納入をお願いしておりますが、まだ会費の納入がお済みでない方は納入をお願いいたします。振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行 00100-3-316035
NPO法人日本バスケットボール振興会

三菱UFJ銀行 神保町支店 普通預金口座 1684743
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行 丸の内中央支店 普通預金口座 1004687
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

- ◇ 当振興会の事務所は、千代田区神田神保町にあります。現在の千代田区は、戦後（1947年）に戦前の神田区と麹町区が合併して誕生しました。神田の町は、旧東京YMCA体育館、旧岸記念お茶ノ水体育館、国民体育館など、戦前から戦後にわたってバスケットボールの歴史が凝縮した場所です。現在、当事務所では、振興会に保管されている「プログラム」・「書籍」・「発行物」など、歴史的な資料の整理を進めています。

◇ カメラマンの募集

今回のプラザ81号のトップリーグ記事の写真は、Wリーグ情報記事に多くなっています。編集部では、イベントに参加しカメラ取材できる部員が少なく、取材への参加が限られているので、大事なイベントでも写真が掲載できないことがあります。振興会会員の皆様でカメラ取材に参加可能な方を編集部で探しています。事務局まで奮ってご応募くださいますようお願いいたします。

◇ 都道府県協会の皆様へ

「バスケットボールプラザ」発行費用一部ご負担をお願いしたところ、複数の都道府県から協力の申し出があり、負担金の振り込みも行われています。発行費用の一部ご負担金は、年額2000円ですので、ご了承の節には上記取引金融機関にお振り込みをお願い申し上げます。

また、都道府県大会などにおける試合の結果や、イベント報告など告知したい事柄がありましたら、事務局へお知らせください。その際には都道府県の頁を設けて、積極的に掲載させていただきます。

プラザ こぼればなし

- ◇ 「AKATSUKI FIVE」男子日本代表は、本文で記載されるように、2月21日にイラン、24日にカタールと2回のアウェー戦で勝利すれば、ワールドカップ本戦に進むことができる。FIBAが3月に開催する理事会で、オリンピック開催国枠の審議があるという。日本男子は、この2戦で好結果を出せば、東京オリンピック出場の見込みがある。昨年秋に日本で開催されたホーム戦でNCAAの八村選手とNBAでプレーする渡辺選手が活躍し、格上のチームから勝利をもぎ取った。今回のアウェー戦はどうなるのか、21日のイラン戦を注目して応援しよう。
- ◇ 高校の全国大会では、野球が甲子園球場、ラグビーが花園ラグビー場といったメッカがある。バスケットボールも東京体育館で開催されるウインターカップがある。これらの全国大会は47都道府県の代表が一堂に集まって競技するので人気も高い。バスケットの全日本選手権大会は、これまで代々木体育館が主会場で、地方を本拠地とするチームやクラブが東京に集合して勝負を競ってきた。ここ1～2年の全日本選手権大会は、1次ラウンド、2次ラウンドとも地方で開催し、ファイナルラウンドとして男女各8チームが一堂に会することとなった。各地方で国内トップチームが競い合う場を設けるのは良いかも知れないが、以前のように全国の多くのチームが、固定されたメッカを目指して勝負する意義や、メッカでプレーする夢があってもよいのでは。
- ◇ B1リーグは1月27日までに各チーム35試合を戦ったが、チームスタッツでフリースローの成功率を見ると、サンロッカーズ渋谷の76.2%が最高で最低は大阪エベッサの64.0%、18チームの平均を見ると71%である。個人では三河の金丸晃輔が92.5%と突出し、8位に横浜の河村卓也が85.3%と頑張っているが、NBAには遠く及ばない。トップリーグの選手はプロ選手なのだから、せめて80%以上の成功率になるようフリースローを重んじてもらいたい。
- ◇ 年末恒例のウインターカップ、多くの長身留学生の活躍が目立った。昨年11月のメディア情報によれば、FIBAから18歳未満の選手に対する国際移籍ルールを守るよう日本協会に通達(2018.11.27.付)があったという。FIBAは18歳未満の選手の国際移籍を原則的に禁止している。留学生は勉学が主目的で、選手として国際移籍しているとは思えないが、日本協会、高体連、及び当該高等学校それぞれの見解は如何なものか知りたいものである。
- ◇ 1月からNHKの大河ドラマ「いだてん」の放映が始まった。数年前、NHKのディレクターから当振興会へ、オリンピックの題材になるようなバスケットボール関係の人物を提案するように依頼があった。数名の候補者をまとめて推薦したが、結果的に採用には至らず、陸上競技のマラソンが取り上げられている。

N P O 法 人
日 本 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 振 興 会
〒 1 0 1 - 0 0 5 1
東 京 都 千 代 田 区 神 田 神 保 町 1 - 4 0
豊 明 ビ ル 3 0 1 号 室
電 話 / F A X (0 3) 3 2 1 9 - 9 3 1 1
メ ー ル sinkokai@jbbs.jp
